

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年 6 月30日
【事業年度】	第91期（自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日）
【会社名】	株式会社 T B グループ
【英訳名】	TB GROUP INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 村田 三郎
【本店の所在の場所】	東京都文京区本郷三丁目 2 6 番 6 号
【電話番号】	0 3（ 5 6 8 4 ） 2 3 2 1（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 布川 文保
【最寄りの連絡場所】	東京都文京区本郷三丁目 2 6 番 6 号
【電話番号】	0 3（ 5 6 8 4 ） 2 3 2 1（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 布川 文保
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号）

第一部【企業情報】

第１【企業の概況】

１【主要な経営指標等の推移】

（１）連結経営指標等

回次	第87期	第88期	第89期	第90期	第91期
決算年月	2021年３月	2022年３月	2023年３月	2024年３月	2025年３月
売上高 (千円)	2,456,533	2,421,894	2,347,187	2,304,783	2,329,863
経常損失（ ） (千円)	378,493	204,115	243,046	230,300	186,713
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ） (千円)	438,423	217,032	245,275	244,315	193,499
包括利益 (千円)	455,509	217,203	245,180	245,505	194,129
純資産額 (千円)	853,378	807,169	906,351	798,665	604,518
総資産額 (千円)	1,638,850	1,560,270	1,676,624	1,570,487	1,562,209
１株当たり純資産額 (円)	90.47	77.56	70.78	58.35	44.20
１株当たり 当期純損失（ ） (円)	46.78	21.85	22.94	17.89	14.15
潜在株式調整後１株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.7	51.2	53.8	50.8	38.7
自己資本利益率 (%)	41.13	26.35	28.83	28.74	27.59
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	204,828	291,478	299,215	271,287	239,960
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	44,214	11,142	26,363	26,422	17,030
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	46,147	342,516	370,475	136,359	187,673
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	391,780	436,019	483,938	323,917	254,766
従業員数 (外、平均臨時雇用人員) (人)	150 (42)	138 (31)	134 (29)	130 (31)	125 (30)

（注）１．従業員数は、就業人員数を表示しております。

２．「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年３月31日）等を第88期の期首から適用しており、第88期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

３．潜在株式調整後１株当たり当期純利益については、第87期から第89期は、潜在株式は存在するものの１株当たり当期純損失のため記載しておりません。第90期及び第91期は１株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第87期	第88期	第89期	第90期	第91期
決算年月	2021年 3 月	2022年 3 月	2023年 3 月	2024年 3 月	2025年 3 月
売上高 (千円)	1,536,716	1,402,822	1,310,736	1,292,101	1,421,214
経常損失 () (千円)	273,929	126,490	154,382	168,074	142,378
当期純損失 () (千円)	411,900	139,905	267,708	235,866	168,139
資本金 (千円)	4,056,589	806,589	988,093	1,057,959	1,057,959
発行済株式総数 (千株)	9,419	10,518	13,065	13,996	13,996
純資産額 (千円)	900,102	958,713	1,050,557	953,047	784,761
総資産額 (千円)	1,356,742	1,430,137	1,503,073	1,409,683	1,386,580
1株当たり純資産額 (円)	95.15	90.78	80.37	68.18	56.14
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(内1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり 当期純損失 () (円)	43.81	13.91	24.55	16.90	12.03
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	65.9	66.6	69.8	67.6	56.6
自己資本利益率 (%)	37.46	15.14	26.75	23.57	19.35
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (人)	48	46	47	45	47
(外、平均臨時雇用人員)	(14)	(15)	(14)	(21)	(21)
株主総利回り (%)	135.7	127.1	193.0	155.0	104.7
(比較指標：ＴＯＰＩＸ) (%)	(139.3)	(138.7)	(142.8)	(197.3)	(189.5)
最高株価 (円)	304	263	274	393	209
最低株価 (円)	120	145	148	162	89

(注) 1. 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第88期の期首から適用しており、第88期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第87期から第89期は、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失のため記載しておりません。また、第90期及び第91期は1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所スタンダード市場におけるものであり、それ以前については東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

２【沿革】

1946年11月	東京都港区に株式会社富士製作所を設立、高周波部品の製造を開始。
1961年 7 月	商号を株式会社スターに変更。
1961年10月	東京証券取引所市場第二部に上場。
1973年12月	本店所在地を群馬県高崎市に移転。
1976年 1 月	電子式金銭登録機（ＥＣＲ）の製造を開始。
1976年 4 月	商号をサン機電株式会社に変更。
1978年10月	東和レジスター工業株式会社と合併。 本店所在地を東京都千代田区に移転。 商号を東和サン機電株式会社に変更。
1982年10月	東和レジスター株式会社〔東京〕、東和レジスター株式会社〔大阪〕と合併し、製販を統合。
1987年10月	埼玉県戸田市に戸田テクニカルセンターを開設。
1989年 3 月	本店所在地を東京都文京区に移転。
1990年 2 月	協デン株式会社（新潟東和メックス株式会社）の株式取得。
1990年 4 月	オーディオビジュアル事業に進出。
1990年10月	商号を東和エスポ株式会社に変更。
1991年10月	商号を東和メックス株式会社に変更。
1993年 5 月	香港に部品調達会社 TOWA MECCS (H.K.) LTD. を設立。
1994年10月	中国上海市に流通情報システム機器販売会社上海東和商用計算機有限公司を設立。
1998年11月	中国中山市に流通情報システム機器製造会社東和商用精密電子（中山）有限公司を設立。
1999年10月	新潟県阿賀野市に新潟物流センターを開設。
2001年 1 月	上海東和商用計算機有限公司を清算。
2001年 7 月	オーディオビジュアル事業を営業譲渡し、メカトロニクス事業に特化。
2003年 6 月	東和商用精密電子（中山）有限公司が ISO9001取得。
2004年 2 月	東和商用精密電子（中山）有限公司が ISO14001取得。
2004年 6 月	東和サンクサービス株式会社（現・連結子会社 Ｔ・Ｂ・ソリューション株式会社）を設立。
2004年11月	株式会社ニューロンの株式取得。
2005年 1 月	TOWA MECCS EUROPE S.A. を設立。
2006年11月	東和アイ株式会社（現・連結子会社 株式会社TOWA）を設立。
2007年 4 月	株式会社トレッド（現・連結子会社 トータルテクノ株式会社）を子会社化。
2007年11月	新潟東和メックス株式会社を清算。
2007年12月	TOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. を設立。
2008年 3 月	TOWA MECCS (H.K.) LTD. の株式及び、東和商用精密電子（中山）有限公司の出資を TOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. に譲渡し、海外事業を統合。
2008年 7 月	株式会社ニューロンの全株式を譲渡。
2009年11月	TOWA MECCS EUROPE S.A. を清算。
2010年 8 月	株式会社オービカル関西を事業統合し株式会社オービカル（現・連結子会社）へと商号変更。
2010年10月	株式会社TOWA西日本を発足。
2011年 6 月	東和商用精密電子（中山）有限公司の全出資金額を譲渡。
2011年10月	商号を株式会社ＴＢグループに変更。
2012年 6 月	株式会社TOWA西日本を株式会社TOWAに事業移管し経営統合。（株式会社TOWA西日本 2015年 1 月清算）
2013年 6 月	株式会社オービカルを株式会社オービカル中部に事業移管し、株式会社オービカル中部を株式会社 オービカルへと商号変更。
2015年 3 月	TOWA GLOBAL TECH CORP. LTD. を清算。
2015年 3 月	株式会社TOWAと株式会社光通信との資本業務提携契約締結。
2015年10月	総合メディアサプライ株式会社（現・連結子会社 株式会社Mビジュアル）を子会社化。
2017年 8 月	株式会社オービカルを当社及び株式会社Mビジュアルに事業移管。
2019年 4 月	直営ホテルMAYUDAMA CABINを横浜市関内にオープン。
2019年 6 月	MAYUDAMA株式会社を設立。
2021年 9 月	株式会社スマートヘルスネットを設立。
2022年 4 月	東京証券取引所の市場再編に伴い、スタンダード市場へ移行。

3【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、当社、連結子会社9社、関連会社2社で構成されており、LED表示機及びデジタルサイネージLED照明部門の企画・販売を中心としたLED&ECO事業と、POS/ECR部門とOES部門の開発・製造・販売及び有料放送サービス、医療・健康分野向け関連機器の販売を中心としたSA機器事業を展開しております。各事業における当社及び子会社・関連会社の位置付け等は次のとおりであります。

なお、次の2部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

（1）LED&ECO事業

当社が企画、開発を行い当社及び㈱TOWA、㈱Mビジュアル中日本が、国内の販売会社、販売代理店及び一般顧客へと個人店舗繁盛の為に全国ネットで販売しております。

（2）SA機器事業

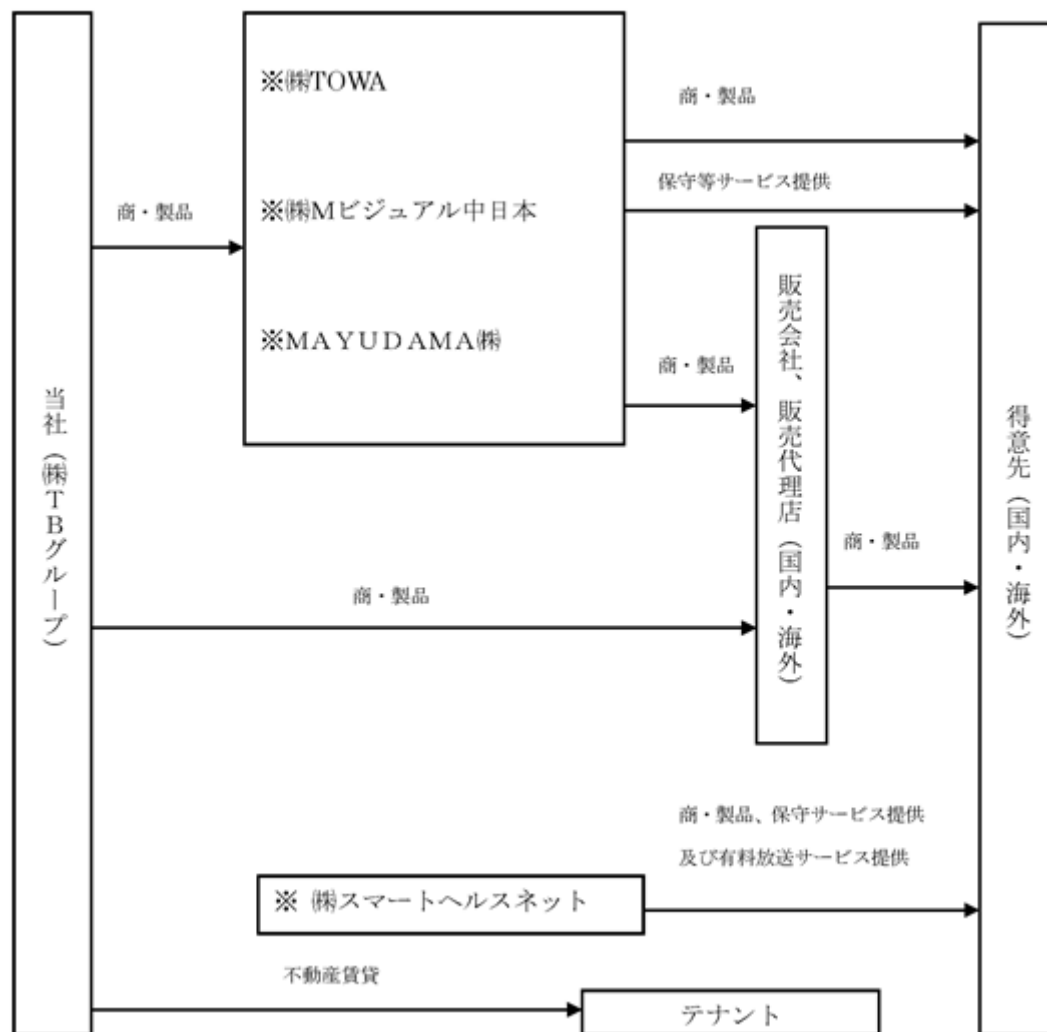
国内向け製品はLED&ECO事業と同様に当社が企画、開発を行い、当社及び㈱TOWAが販売会社、販売代理店及び一般客へと個人店舗繁盛の為に全国ネットで販売しております。また、海外向け製品は当社より海外の販売代理店に販売しております。当社及びMAYUDAMA㈱は、カプセル型宿泊施設向け製品の販売をしており、MAYUDAMA㈱は宿泊施設の運営を行っております。㈱スマートヘルスネットは病院・介護施設関連ヘシステム機器の販売及び、ホテル向けに商品の販売及び有料放送サービスを行っております。

（3）その他事業

当社がビルの賃貸等の事業を行っております。

〔事業系統図〕

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



連結子会社

4【関係会社の状況】

(1) 親会社

該当事項はありません。

(2) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(株)TOWA (注)2・3	東京都文京区	100,000千円	ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業 およびＳＡ機器事業	100	当社のデジタルサイ ネージおよびＬＥＤ 表示機、ＳＡ機器の 販売
(株)スマートヘルスネット (注)2・4	東京都文京区	130,000千円	ＳＡ機器事業	100	役員の兼任等...有
(株)Ｍビジュアル中日本	愛知県名古屋市	5,000千円	ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業	80	当社のデジタルサイ ネージおよびＬＥＤ 表示機の販売
ＭＡＹＵＤＡＭＡ(株) (注)5	東京都文京区	40,000千円	ＳＡ機器事業	100	役員の兼任等...有
(株)Ｍビジュアル (注)6	東京都文京区	60,000千円		100	資金援助...有
トータルテクノ(株) (注)7	東京都文京区	100,000千円		100	資金援助...有
(株)オービカル (注)8	愛知県名古屋市	70,000千円		100	資金援助...有
(株)オービカル (注)2・9	東京都文京区	198,000千円		100	資金援助...有
その他1社					

(注)1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. (株)TOWAについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。また、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は75,581千円であります。

主要な損益情報等	売上高	1,301,374千円
	経常損益	3,368千円
	当期純損益	2,108千円
	純資産額	75,581千円
	総資産額	242,034千円

4. (株)スマートヘルスネットについては、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は31,339千円であります。

5. M A Y U D A M A (株)については、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は40,251千円であります。

6. (株)Mビジュアルについては、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は171,654千円であります。

7. トータルテクノ(株)については、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は131,595千円であります。

- ８．(株)オービカルについては、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は228,934千円であります。なお、2013年６月に(株)オービカル中部を(株)オービカルへと商号変更しております。
- ９．(株)オービカルについては、連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある連結子会社であり、債務超過額は145,040千円であります。なお、2013年６月に(株)オービカル中部に事業を移管しております。

(3) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(株)ホスピタルネット (注) 2	大阪市北区	100,000千円	病院ホテル向け カードシステム事業 他	15 [72.0]	役員の兼任等...有

- (注) １．議決権の所有割合の[]内は、緊密な者又は同意している者の所有割合で外数となっております。
- ２．持分は100分の20未満であるが、実質的な影響力を持っているため関連会社としたものであります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2025年３月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
L E D & E C O事業	125(30)
S A機器事業	
その他	- (-)
合計	125(30)

- (注) １．従業員数は、就業人員数(当社グループからグループ外への出向を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む)であり、契約社員数は、()内に当連結会計年度の人数を外数で記載しております。
- ２．L E D & E C O事業とS A機器事業については、人員をそれぞれセグメント別に区分して表示することが困難なため、両セグメントを一括して記載しております。

(2) 提出会社の状況

2025年３月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
47(21)	47.9	16.6	4,840,088

セグメントの名称	従業員数(人)
L E D & E C O事業	47(21)
S A機器事業	
その他	- (-)
合計	47(21)

- (注) １．従業員数は、就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、契約社員数は、()内に当事業年度の人数を外数で記載しております。
- ２．平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- ３．L E D & E C O事業とS A機器事業につきましては、人員をそれぞれセグメント別に区分して表示することが困難なため、両セグメントを一括して記載しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループには労働組合はありません。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金差異
提出会社

当事業年度					補足説明
管理職に占める女性労働者の割合（％） （注）１．	男性労働者の育児休業取得率（％） （注）２．	労働者の男女の賃金の差異（％） （注）１．			
		全労働者	正規雇用労働者	パート・有期労働者	
9.3	-	68.1	72.7	70.4	属性（勤続年数、役職等）が同じ男女労働者間での賃金の差異はありません。

(注)1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

3. 連結子会社については、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

第２【事業の状況】

１【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

経営方針と経営環境

当社グループは、「喜んでもらう喜び 己も喜びたい」の社是のもと、ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業およびＳＡ機器事業を中核に「普及率ゼロ」の新商品およびビジネスモデルを創り、グッド３Ｋ（環境・健康・観光）分野でニッチトップ経営を目指します。

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や、インバウンド需要の拡大などにより、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、不安定な国際情勢や、資源・原材料・エネルギー価格の高止まり、米国の関税政策、中国経済の成長鈍化など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

経営戦略と優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループは、安定的、永続的に成長するために、従来から「営業利益率」、「１人当たり生産性」を重要な経営指標と認識しております。これら指標の改善を目指して、効率的な経営に努め、企業価値の向上を図ってまいります。

当社グループは、ハードウェアセールス主体のフロー型収益モデルから、サービス（役務）を同時に提供するストック型収益モデルへのシフトを図ると共に、屋内市場に進出することで売上高の増加と収益の継続的な計上の事業構造への転換を図る為、以下の取り組みにより更なる市場ニーズと顧客満足度を高めてまいります。

ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業は、既存の屋外市場に加え、市場規模の大きい屋内市場にも注力するとともに、法人向け大型サイネージ販売を推進する為、パートナー企業の開拓によりアライアンスの強化に取り組み一層の販売に注力いたします。高精細ＬＥＤビジョンが開発され従来の屋内市場は主力のＬＣＤ商材から超高輝度高精細ＬＥＤビジョンへと主流が変化したことに伴い、チェーンストア及び公共交通機関、アパレル等の需要が拡大しております。当該マーケット向けにネットワーク対応サイネージ、クラウド活用のＡＳＰ事業、システム企業との協業を進め継続収入が得られる地域密着型デジタル広告事業のロケーション開拓を行ってまいります。

ＳＡ機器事業は、キャッシュハイブリッド型セルフレジ「ＣａｓｈＨｉｖｅ」をはじめとしたＳＡ機器は、新ブランド「ＧＯ！プラットフォーム」に、レジスター・サイネージ等の各種サービスを統合し、新市場を開拓し、セルフレジラインナップを強化し遠隔接客システムを融合させたセルフレジシステムの投入を推進いたします。連結子会社の株式会社スマートヘルスネットは、ホテル分野、観光分野、外貨両替サービス分野や買い替え需要時期を迎えているホテル向け商材の事業を展開させ推進いたします。

2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組みは、次の通りであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) ガバナンス

当社グループは、取締役会において、社会・環境の変化に伴うリスクと機会の把握に努め、特に経営に影響を及ぼす社会課題や環境の変化について、当社グループが取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定するとともに課題解決策の方向性を決定しており、課題解決に向けての具体的な取り組みや協議は、代表取締役と各事業セグメントの責任者で構成されるＳＣ会にて行っております。

(2) 戦略

サステナビリティについての取組み

当社グループはＬＥＤ＆ＥＣＯ事業において、ＬＥＤを利用した電子看板等による節電効果等により、エネルギー問題への対応を行ってまいります。加えて、コア事業である屋外向け商業用中小型サイネージ及び電子レジスター＆ＰＯＳシステム事業において、ハード売り切り型からサブスクリプション・リカーリング型への商品ラインナップ拡充により、過剰在庫の防止および生産における廃棄物の削減に取り組むことで、資源循環型社会実現への貢献を推進してまいります。

人材の育成及び社内環境整備に関する方針

当社グループは、組織力向上のために適切な人員配置を行うだけでなく、社外・社内研修等を通じて当社の組織力向上に貢献する人材を育成、支援します。社員が望む多彩なキャリアの形成に応えるよう努め、社員各自の能力を最大限に発揮できる環境作りを推進してまいります。また、女性・外国人の管理職への登用など、多様性の確保にも努めてまいります。その一環として、管理職候補者輩出のための人材育成を進め、女性管理職の登用を継続的に行ってまいります。さらに、多様性の確保の一環として、グループ会社にて外国籍の新卒者を採用しております。今後も新卒・中途採用において、性別・国籍を問わず積極的に採用活動を行い、今後も引き続き多様性の確保に向けた施策を推進してまいります。

(3) リスク管理

当社グループでは、代表取締役と各事業セグメントの責任者で構成されるＳＣ会にて、当社グループの行う事業におけるリスクを識別し、取締役会へ報告され、識別されたリスクについて協議や評価を行っております。また社長直轄のタスクフォースによる内部監査にて、事業活動における一般的なリスクを含むリスクの識別と評価が行われており、監査役会および取締役会へ報告されております。

(4) 指標及び目標

当社グループは、ＴＣＦＤ提言における開示を推奨している炭素関連資産の把握および国際エネルギー機関（ＩＥＡ）等が公表している複数のシナリオを参照し、気候変動に起因する移行リスクおよび物理的リスクならびに機会を分析し、当社グループが取り組むべき指標および目標を定めてまいります。

ライフステージの変化や働き方が制限される場合でも柔軟な働き方が選択できる環境づくりに取り組み、従業員の多様な個性や視点を重視し、新たな価値創造を組織にもたらす取り組みの一環として、当社グループでは、現在約６％の女性管理職比率を、2030年までには一定水準まで引き上げることを目指してまいります。

3【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 経済環境・事業環境が変化するリスク

当社グループは、アジア・北米・ヨーロッパを中心としてグローバルな事業展開を行っております。国内はもちろん、世界的またはその国・その地域の景気後退、競争激化により、あるいは特定の国・地域における予測不能な政策変更、規制強化、政情不安等により損失が発生した場合、当社グループの経営成績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、取引先国の情報の収集に努めており、事業に及ぼすリスクに速やかな対応を図ることとしております。

(2) 技術革新による製品価値の著しい下落リスク

当社グループの主要製品は電気（電子）、通信、画像処理等の技術を活用し開発製造しております。著しい技術革新が行われた場合に、製品市場競争力の低下が発生し、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、既存製品の性能品質向上及び「普及率ゼロ」の新市場に向けて、付加価値の高い積極的な開発活動を行い製品価値の向上に努めております。

(3) 為替変動によるリスク

当社グループは、外貨建て取引を行っております。営業取引においては、為替変動リスクを軽減するため、必要に応じて実需に基づく為替予約等のデリバティブ取引を締結しておりますが、これらのヘッジ取引により、当該リスクを完全に回避できる保証はなく、今後の為替変動によっては、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 金利変動によるリスク

当社グループは、主として金融機関からの借入金により事業資金を調達しております。金利情勢等を勘案し、必要に応じて金利の低い短期借入金で調達し、一部長期借入金についても金利コスト低減に努めております。今後の金利変動によっては、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 株価変動によるリスク

当社グループは、販売または仕入に係る取引先の株式を保有しておりますが、今後の株式市場の下落や発行会社の業績悪化による株価変動によっては、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 取引先の信用リスク

当社グループは、取引先毎に与信管理を行い、想定し得る回収リスクについては、情報に基づきこれまでのノウハウにて対策をしておりますが、全額回収を保証するものではありません。特定の取引先において、倒産等により債務不履行が生じた場合、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) 事業投資リスク

当社グループは、事業展開を図るため、新会社の設立、既存の会社への投資を行っております。新規投資については取締役会で検討を行い、また撤退基準を設け慎重を期しておりますが、投資先企業の企業価値が低下した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) 品質保証によるリスク

当社グループは、品質管理には万全を期すとともに、ＰＬ（製造物責任）保険等の付加によるリスク対策をとっておりますが、品質問題が生じた場合、補償損失が発生し、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、環境関連の法令及び規則により、国内外の取引先から環境負荷物質不使用についての保証を求められる動きが広がっております。不測の事態が発生した場合、取引に支障をきたし、その場合は当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(9) 地震など自然災害に係わるリスク

地震対策マニュアルの整備、非常対策本部の設置や訓練実施など対応を進めております。しかしながらかかる自然災害は想定をはるかに超える規模で発生する可能性もあり、かかる場合には当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(10) 内部統制によるリスク

当社グループでは、内部統制を強化し、業務運営において役員・社員による不正行為の防止に万全を期しておりますが、万一かかる不正行為が発生した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(11) 重要事象等について

当社グループは、前連結会計年度において18期連続の営業損失を計上し、当連結会計年度においても、営業損失1億96百万円及び親会社株主に帰属する当期純損失1億93百万円を計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

この主たる要因は、地方経済の低迷による当社グループ主力の既存事業の中小型ＬＥＤ表示機の販売低迷、また、新規事業であるストック型の収益モデル及びヘルスケア分野での事業化の遅れによるものであります。

なお、当該状況を解消または改善するため、当社グループは、ハードウェアセールス主体のフロー型収益モデルから、サービス（役務）を同時に提供するストック型収益モデルへのシフトを図ると共に、屋内市場に進出することで売上高の増加と収益の継続的な計上の事業構造への転換を図る為、以下の取り組みにより更なる市場ニーズと顧客満足度を高めてまいります。

ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業は、既存の屋外市場に加え、市場規模の大きい屋内市場にも注力するとともに、法人向け大型サイネージ販売を推進する為、パートナー企業の開拓によりアライアンスの強化に取り組み一層の販売に注力いたします。高精細ＬＥＤビジョンが開発され従来の屋内市場は主力のＬＣＤ商材から超高輝度高精細ＬＥＤビジョンへと主流が変化したことに伴い、チェーンストア及び公共交通機関、アパレル等の需要が拡大しております。当該マーケット向けにネットワーク対応サイネージ、クラウド活用のＡＳＰ事業、システム企業との協業を進め継続収入が得られる地域密着型デジタル広告事業のロケーション開拓を行ってまいります。

ＳＡ機器事業は、キャッシュハイブリッド型セルフレジ「ＣａｓｈＨｉｖｅ」をはじめとしたＳＡ機器は、新ブランド「ＧＯ！プラットフォーム」に、レジスター・サイネージ等の各種サービスを統合し、新市場を開拓し、セルフレジラインナップを強化し遠隔接客システムを融合させたセルフレジシステムの投入を推進いたします。連結子会社の株式会社スマートヘルスネットは、ホテル分野、観光分野、外貨両替サービス分野や買い替え需要時期を迎えているホテル向け商材の事業を展開させ推進いたします。

当連結会計年度末時点における現金及び預金残高は2億56百万円であり、流動比率も一定の水準を維持しており更に必要に応じて、一部保有資産の資金化を図ること等から当面の事業資金は確保していると判断しております。なお、長期的な資金確保のため、様々な手法による新たな資金調達について協議を進めております。

以上により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、連結財務諸表への注記は記載しておりません。

４【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当社グループは当連結会計年度である第91期の経営スローガンを「“チャンス到来”（ハード＋DX）で捉える！」とし、ハードウェアセールス主体のフロー型収益モデルから、ストック型収益モデルへシフトを図る事業開発を進めると共に、従来の法人向け大型サイネージに加え、新たに屋内向けサイネージ事業の拡張に向けて、事業開発を行って参りました。

当連結会計年度は、法人向け大型サイネージの受注件数が大きく増加し業績寄与いたしました。一方、中小料飲店等向けのLEDサイネージは前期と同程度となりました。また、電子レジスター等のSA機器商材は、法人向けPOSシステムの導入が進み、輸出部門のキャッシュドローアの販売も伸長いたしましたが、インボイス制度対応特需の反動もあり前年同期を下回りました。加えて、新規事業であるヘルスケア分野は、事業開発の遅れ等により業績寄与には至りませんでした。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高23億29百万円（前年同期比1.1%増）、営業損失1億96百万円（前年同期は2億22百万円の営業損失、26百万円の改善）、経常損失1億86百万円（前年同期は2億30百万円の経常損失、43百万円の改善）、親会社株主に帰属する当期純損失1億93百万円（前年同期は2億44百万円の親会社株主に帰属する当期純損失、50百万円の改善）となりました。

なお、第4四半期（1月～3月）は営業損失23百万円（前年同期は69百万円の営業損失、46百万円の改善）となり改善傾向となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

[LED&ECO事業]

主にチェーン組織を中心とする法人向けLED大型ビジョン分野は、ドラッグストアチェーンや大手のアパレル・ファーストフード・金融機関への導入に加え、公共鉄道機関や公共スポーツ施設など多数の受注がありました。また、法人顧客に取引口座を持つ販売パートナーの開拓による効果もあり増収増益となりました。

中小飲食店を主な販売対象とするSMB領域においては、首都圏を商圏とする直販組織は、インバウンド需要の拡大効果や新製品効果などにより伸長いたしましたが、地方地域における販売は低迷しました。

新規事業分野の自社広告型DOOH事業においては、中野ブロードウェイ・千歳船橋駅前広場の認知度が高まり、大手放送事業者や地元医療機関に加え、大手自動車会社の広告を受注いたしました。また、継続的な収益をもたらすクラウド型サブスクリプションサービス「GO!VISION」は、新たなパートナー企業との連携サービスの構築を開始しました。

第4四半期（1月～3月）における法人顧客への販売が伸長したことにより損益は大幅に改善し黒字となりました。引き続き受注が継続していることから、今後の成長戦略として位置づけ経営資源を集中します。

その結果、LED&ECO事業の売上高は、13億93百万円（前年同期比11.3%増）、セグメント利益は、3百万円（前年同期は47百万円のセグメント損失、50百万円の改善）となりました。

SMBとはSmall and Medium Businessの略で中小企業を意味する言葉です。

[SA機器事業]

主にチェーン組織を中心とする法人向けPOS/セルフレジ分野は医療機関向けのPOS及びセルフレジの導入が増加した一方、流通向けPOSの販売は減少となりました。このような背景から今後はセルフレジラインナップを強化するとともに、新たにインバウンド需要が高まる宿泊施設向けに遠隔接客システムを融合したセルフレジシステムの投入を推進してまいります。また、海外マーケット向けOEM製品となるPOS周辺機器分野は伸長いたしました。

中小飲食店を主な販売対象とするSMB領域においては、レジ需要の低迷を受けていたことから、レジからPOSシステムへの転換策に取り組み、販売の主体が替わり定着が進みました。

なお、レジ及びPOS分野においては具体的な収益改善策を講じることが喫緊の課題ですが、本業界から撤退する大手レジメーカーの顧客層であるスタートアップ店舗を獲得する施策を講じてまいります。

直営宿泊施設MAYUDAMA CABIN横浜関内においては、インバウンド需要の高まりもあり宿泊数は増加いたしました。また、ヘルスケア分野では新規事業の構築を行いました業績寄与には至りませんでした。

その結果、SA機器事業の売上高は、9億27百万円（前年同期比11.2%減）、セグメント損失は、1億98百万円（前年同期は1億75百万円のセグメント損失、23百万円の悪化）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ69百万円（21.3%減）減少し、当連結会計年度末には2億54百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は2億39百万円（前年同期比31百万円減）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失1億81百万円、売上債権の増加額49百万円、仕入債務の減少額49百万円により資金が減少したこと、また、棚卸資産の減少額26百万円による資金の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は17百万円（前年同期比9百万円減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12百万円により資金が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は1億87百万円（前年同期比51百万円増）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額2億2百万円、長期借入れによる収入45百万円により資金が増加したことと、また、長期借入金の返済による支出58百万円により資金が減少したことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a．生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	前年同期比(%)
L E D & E C O事業 (千円)	374,183	85.7
S A 機器事業 (千円)	40,451	59.5
報告セグメント計 (千円)	414,635	82.2
その他 (千円)	-	-
合計 (千円)	414,635	82.2

（注）金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

b．受注実績

当社グループは主に見込み生産を行っており、当連結会計年度における受注実績の重要性が乏しいため記載を省略しております。

c．販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	前年同期比(%)
L E D & E C O事業 (千円)	1,393,209	111.3
S A 機器事業 (千円)	927,515	88.8
報告セグメント計 (千円)	2,320,725	101.1
その他 (千円)	9,138	100.0
合計 (千円)	2,329,863	101.1

（注）セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容
経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度の売上高は23億29百万円となり、前連結会計年度に比べ25百万円増加（前年同期比1.1%増）いたしました。主に法人向け L E D大型ビジョンのチェーンストア等に向けた販売が堅調となり増収となりました。また、カプセル型ホテルM A Y U D A M A C A B I N横浜関内の事業再開により増収となりました。一方、主に中小料飲食店向けの電子レジスター及び P O S 事業は減収となりました。また、新規事業会社㈱スマートヘルスネットにおける、ヘルスケア分野は市場開拓の遅れにより売上計上は限定的となりました。

(売上原価、販売費及び一般管理費)

当連結会計年度の売上原価は 9 億93百万円となり、前連結会計年度に比べ27百万円増加（前年同期比2.8%増）いたしました。これは主に、売上高の増加によるものと原価率が0.7ポイント悪化したことによるものであります。

また、当連結会計年度の販売費及び一般管理費は15億33百万円となり、前連結会計年度に比べ28百万円減少（前年同期比1.8%減）いたしました。これは主に、代理店契約の変更に伴う販売費用の減少によるものであります。

(営業損失)

当連結会計年度の営業損失は 1 億96百万円となり、前連結会計年度に比べて26百万円改善（前年同期は 2 億22百万円の営業損失）いたしました。

(営業外損益)

当連結会計年度の営業外収益は19百万円となり前連結会計年度に比べ 6 百万円増加（前年同期比50.9%増）いたしました。これは主に、持分法による投資利益の増加 8 百万円によるものであります。

一方、当連結会計年度の営業外費用は10百万円となり、前連結会計年度に比べ10百万円減少（前年同期比49.9%減）いたしました。これは主に、為替差損の減少 8 百万円によるものであります。

(経常損失)

当連結会計年度の経常損失は 1 億86百万円となり、前連結会計年度に比べ43百万円改善（前年同期は 2 億30百万円の経常損失）いたしました。

(特別損益)

当連結会計年度の特別利益は 4 百万円となり前連結会計年度に比べ 4 百万円増加（前年同期は特別利益の計上なし）いたしました。これは主に、当連結会計年度に受取保険金 4 百万円を計上したことによるものであります。

一方、当連結会計年度の特別損失の計上はございません。前連結会計年度に比べ 5 百万円減少いたしました。これは主に、前連結会計年度に固定資産除却損 5 百万円を計上したことによるものであります。

(親会社株主に帰属する当期純損失)

当連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純損失は 1 億93百万円となり、前連結会計年度に比べ50百万円改善（前年同期は 2 億44百万円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

経営指標分析

指標	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)	前年同期比
営業利益率	9.7%	8.4%	1.2%改善
一人当たり生産性 (一人当たり売上高)	17,460千円	18,273千円	812千円増(4.7%増)

財政状態の分析

（総資産）

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 8 百万円減少して15億62百万円となりました。流動資産は、現金及び預金の減少69百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の増加82百万円、商品及び製品の減少58百万円等により、前連結会計年度末に比べ17百万円減少し11億46百万円となりました。固定資産は、投資有価証券の持分法による投資利益等による増加13百万円等により前連結会計年度末に比べ 9 百万円増加し 4 億15百万円となりました。

（負債）

負債は、前連結会計年度末に比べ 1 億85百万円増加して 9 億57百万円となりました。流動負債は、支払手形及び買掛金の減少40百万円、短期借入金の増加 2 億 2 百万円等により前連結会計年度末に比べ 1 億95百万円増加し 6 億35百万円となりました。固定負債は、長期借入金の減少 9 百万円等により前連結会計年度末に比べ 9 百万円減少し 3 億22百万円となりました。

（純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べ 1 億94百万円減少して 6 億 4 百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純損失による利益剰余金の減少 1 億93百万円等によるものであります。

セグメント別の状況

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は、「第 2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（１）経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

キャッシュ・フローの状況の分析

当社グループの当連結会計年度のキャッシュ・フローは、「第 2 事業の状況 4 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析（１）経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、商製品仕入のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は 5 億53百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は 2 億54百万円となっております。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積もりが必要な事項については、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

5【重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは「人と環境に優しい企業グループ経営を目指し、世の中を明るくする」の企業理念のもと「普及率ゼロ」の新市場に向けて、付加価値の高い積極的な開発活動を行っております。

当連結会計年度における研究開発活動について、各セグメント別の研究の目的、研究体制、研究成果及び研究開発費は次のとおりであります。また、研究開発費の総額は8,346千円となっております。

(1) ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業

当連結会計年度においては、前期から開発を進めてきた主力ＬＥＤデジタルサイネージ製品の最新機種「スーパーエコリアyay!」をリリースしました。当製品には、シリーズ初となる音声出力機能「キャッチオン（音）」が追加され、音による気付き効果や、映像と音声の組み合わせによる高い訴求効果を実現しています。また、単なる集客ツールとしてだけでなく、センサーと連動して駐車場の出庫を音と文字で知らせるなど、注意喚起の用途にも使用できるため、店舗販促にとどまらず幅広い場面での活用が可能となりました。

ＬＥＤビジョン製品では、新たに「Avant6」を開発しました。従来機に比べリフレッシュレートを4倍に向上させ、ちらつきの少ないなめらかで美しい映像表現を実現しています。複数台を縦横に連結することで、額縁のないシームレスな大画面を構成することも可能です。

同時に、「Avant6」に対応するコントローラーとして、スタンドアロン型とクラウド対応ネットワーク型の2種類をリリースしました。スタンドアロン型には、液晶デジタルサイネージ「SuperBRID」で高い評価を受けている「DS-CONNECT」を搭載し、これまで専門知識やスキルが必要だったＬＥＤビジョンにおいて、誰でも気軽にコンテンツの転送や再生リストの更新が行える簡単操作を実現しました。「DS-CONNECT」は、手元のスマホやタブレット、PCなどから手軽にコンテンツの転送や再生リストの作成などが行える当社独自の機能です。またクラウド対応ネットワーク型では、サブスクリプション用のGO!VISIONクラウドに対応しており、複数のディスプレイに遠隔からコンテンツの配信などを行うことが可能です。

一方で屋内市場シェアの獲得を目指して屋内型ＬＥＤビジョン「Attravi」を開発しました。「Attravi」は、液晶ディスプレイやプロジェクターに代わる次世代の屋内向け液晶ディスプレイです。表示面にフリップチップ方式のCOB型モジュールを採用することで、液晶プロジェクターよりも明るくコントラストに優れ、液晶パネルよりも大きな画面を構成することができます。「Attravi」は「108インチ」、「135インチ」、「162インチ」の3タイプをラインナップしております。

これらの他に、液晶兼用のフルハイビジョン対応ＬＥＤディスプレイコントローラーを開発中で、スタンドアロン型とクラウド対応のネットワーク型をラインナップ予定です。

また、広告配信に特化し、放映用ロールを自動生成できるクラウドシステム「GO!VISION Proクラウド」を開発中です。DOOH（デジタル屋外広告）媒体における放映ロールの作成は煩雑であり、頻繁に行われることから、このシステムの開発は大きな課題解決につながると考えています。

昨今の防災意識の高まりを受け、防災機関から発表される地震や津波発生時の災害情報など、危機管理情報を「みちびき」（準天頂衛星システム）経由でデジタルサイネージに表示する災害・危機管理通報サービス「災危通報」に対応するコントローラーを開発しています。

当事業に係る研究開発費は、6,793千円であります。

(2) ＳＡ機器事業

当連結会計年度においては、セルフ・セミセルフ化、キャッシュレス対応、店舗・施設のDX化に向けた最新のハードウェア及びソリューション製品・サービスの開発・リリースを行いました。

キャッシュハイブリッド型セルフ・セミセルフソリューション「Cash Hive」は、継続した改善・改良を行い、大手流通チェーンへの導入が継続しました。また、自社開発による飲食店向けアプリケーションを搭載した「Cash Hive CLOUD セルフ」を2024年6月にリリースしました。さらに、宿泊施設向けセルフ精算アプリケーションも開発しました。先行導入施設での実稼働による改善・改良も進めており、次年度にて、無人対応システムとの連携なども含め、販売を進めて参ります。

実店舗・施設でのセルフ・セミセルフ化、キャッシュレス対応、DX化を支える最新のハードウェア製品として、本年2月に最新のTOUCH REGI シリーズとなる「iTR-1」、「FT-800」を開発・リリースしました。両製品ともに、同年3月に東京ビッグサイトにて開催された、リテールテックJAPAN2025に出品いたしました。本展示会での引き合い、ニーズを基に次年度の改善・改良に活かしてまいります。

ストック型ビジネスモデルへの転換を図るサブスクリプション型クラウドサービス「GO!」においては、継続した開発投資を行い、サブスク型クラウド対応POSレジ「GO!REGI」をはじめとしたサービス群の更なるサービス拡充を進めております。今後の安定した収益への布石を打っております。

官公庁向けシステム機器としては、ネットワークに対応したキャッシュドローア及びコントロール機器の開発に着手いたしました。リリース・導入展開は、次年度にて、業績に寄与してまいります。

2025年度においても、引き続き時流に乗った商品・サービスの提供を進め、SA機器事業の拡大に努めます。

当事業に係る研究開発費は、1,553千円であります。

第 3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、「選択と集中」を基本方針に効率的な経営資源の配分を図るとともに経営基盤の強化を目的として、当連結会計年度は、販売促進用器具備品及び顧客サービス用ソフトウェア導入等で23,690千円の設備投資を実施いたしました。

セグメント別には、販売促進用器具備品及び顧客サービス用ソフトウェア導入等として L E D & E C O 事業14,575千円、販売促進用器具備品等として S A 機器事業9,115千円となりました。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) L E D & E C O 事業・ S A 機器事業
提出会社

(2025年 3月31日現在)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)						従業員数 (人)
		建物及び 構 築 物	機 械 装 置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都文京区)	販売設備	0 [0]	-	-	-	11,786	11,786	28 (4)
宇都宮センター (栃木県宇都宮市)	L E D 広告機器、 S A 機器開発設備	1,643	0	-	-	547	2,191	15 (4)
新潟物流センター (新潟県阿賀野市)	物流倉庫	24,530	0	33,346 (11,329.15)	-	0	57,876	1 (8)
関西事務所 (大阪府大阪市)	販売設備	213 [213]	-	-	-	0	213	2
M A Y U D A M A C A B I N (神奈川県横浜市)	ホテル店舗設備	0	-	-	-	1,634	1,634	-

国内子会社

(2025年 3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)						従業員数 (人)
			建物及び 構 築 物	機 械 装 置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
(株)オービカル	中部支社 (愛知県名古屋市中村区)	販売設備	1,815 [1,815]	-	-	-	-	1,815	-

(2) その他
提出会社

(2025年 3月31日現在)

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額 (千円)						従業員数 (人)
		建物及び 構 築 物	機 械 装 置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都文京区)	その他設備	0	-	- (-)	-	-	0	-
志摩 (三重県志摩市)	その他設備	-	-	448 (898.00)	-	-	448	-
関西事務所 (大阪府大阪市)	その他設備	270	-	- (-)	-	-	270	-

- (注) 1．帳簿価額のうち「その他」は、工具器具及び備品の合計であります。
- 2．建物の一部を賃借しており、年間賃借料は52,647千円であります。
- 3．L E D & E C O 事業・ S A 機器事業の提出会社、本社及び関西事務所に記載している [] は連結子会社である、(株)T O W A、(株)スマートヘルスネットへの貸与分であり内書であります。
- 4．L E D & E C O 事業の国内子会社、(株)オービカルに記載している [] は連結子会社である、(株)M ビジュアル中日本への貸与分であり内書であります。
- 5．従業員数の () は、契約社員を外書しております。
- 6．現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第 4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2025年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2025年6月30日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	13,996,942	13,996,942	東京証券取引所スタンダード市場	単元株式数 100株
計	13,996,942	13,996,942	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総増減数 (株)	発行済株式 総数 残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年7月30日 (注) 1	-	9,419,142	3,350,000	706,589	1,301,645	-
2021年8月25日 (注) 2	1,098,900	10,518,042	99,999	806,589	99,999	99,999
2023年1月23日 (注) 3	2,127,600	12,645,642	149,995	956,585	149,995	249,995
2023年3月1日～ 2023年3月31日 (注) 4	420,000	13,065,642	31,508	988,093	31,508	281,504
2023年4月1日～ 2023年4月12日 (注) 4	931,300	13,996,942	69,866	1,057,959	69,866	351,370

(注) 1 . 2021年6月29日開催の定時株主総会決議に基づき、資本金及び資本準備金を減少し、その他資本剰余金に振り替えたものであります。また同日付でその他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替え欠損填補を行っております。

- ２．2021年８月25日を払込期日とする第三者割当増資により、発行済株式総数、資本金及び資本準備金はそれぞれ増加しております。
- 有償第三者割当
発行価格 182円
資本組入額 91円
割当先 株式会社ホスピタルネット
- ３．2023年１月23日を払込期日とする第三者割当増資により、発行済株式総数、資本金及び資本準備金はそれぞれ増加しております。
- 有償第三者割当
発行価格 141円
資本組入額 70.5円
割当先 プロGRESS・インテリジェンス２号投資事業有限責任組合、株式会社ホスピタルネット
- ４．新株予約権の権利行使による増加であります。

（５）【所有者別状況】

2025年３月31日現在

区分	株式の状況（１単元の株式数　100株）								単元未満 株式の状況 （株）
	政府及び地方 公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他 の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	-	2	25	46	22	24	4,899	5,018	-
所有株式数 （単元）	-	490	8,452	31,417	13,291	333	85,864	139,847	12,242
所有株式数の 割合（％）	-	0.35	6.04	22.47	9.50	0.24	61.40	100	-

- （注）１．自己株式17,741株は「個人その他」に177単元及び「単元未満株式の状況」に41株を含めて記載しております。
- ２．上記「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が17単元含まれております。

（６）【大株主の状況】

2025年３月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社ホスピタルネット	大阪府大阪市北区西天満４－８－17	2,005	14.34
INTERACTIVE BROKERS LLC （常任代理人 インタラクティブ・ブローカーズ証券株式会社）	ONE PICKWICK PLAZA GREENWICH , CONNECTICUT 06830 USA （東京都千代田区霞が関３－２－５）	801	5.74
株式会社ビッグサンズ	大阪府大阪市北区西天満４－８－17	705	5.05
村上 栄	大阪府大阪市	340	2.43
村田 三郎	大阪府堺市	292	2.10
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内２－７－３	281	2.01
東京短資株式会社	東京都中央区日本橋室町４－４－10	238	1.71
株式会社SBI証券	東京都港区六本木１－６－１	217	1.55
北浜ＩＲファンド第３号投資事業有限責任組合	大阪府大阪市城東区鳴野西５－17-12	200	1.43
北浜ＩＲファンド第１号投資事業有限責任組合	大阪府大阪市城東区鳴野西５－17-12	150	1.07
計	-	5,233	37.44

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 17,700	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 13,967,000	139,670	-
単元未満株式	普通株式 12,242	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,996,942	-	-
総株主の議決権	-	139,670	-

(注) 「完全議決権株式 (その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,700株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数17個が含まれております。

【自己株式等】

2025年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(株) T B グループ	東京都文京区本郷 3 - 26 - 6	17,700	-	17,700	0.13
計	-	17,700	-	17,700	0.13

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	112	18,313
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2025年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(４)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	17,741	-	17,741	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

株主の皆様に対する利益還元が経営の重要課題であると認識しており、企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保を充実するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行なうことを基本としております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

この剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

なお、当期の配当金につきましては誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(１)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

企業統治の体制につきましては、当社は企業の社会的責任を果たすと共に、事業活動を通じて安定的な利益をあげ企業価値を高め、継続的に株主価値を増大させることを、経営の最重要課題と考えております。

そのためには、コーポレート・ガバナンスの確立が不可欠と考え、経営課題に対する明確な意思決定とそれに基づく迅速な業務執行ならびに適正な監督、監視を可能とする経営体制の構築、ディスクロージャーの拡充を図るとともに、個人のコンプライアンス意識の高揚の為、研修、教育の徹底を図り、総合的なコーポレート・ガバナンスを充実させてまいります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

イ．企業統治の体制の概要

当社は、取締役会が迅速かつ的確な意思決定を行うとともに、各部門を管掌する取締役相互の情報の共有化によりその業務執行状況を監査する体制をとっております。また取締役会を補佐する会議を適時開催し、組織への意思決定の徹底を図っております。

また、監査役会は取締役会、執行部門からの業務執行状況の聴取、および法令遵守をはじめ経営全般の監視・監査機能を果たしているため、経営の監視体制は確保されていると考えております。

ＴＢＳＣ会は、重要な経営テーマや今後の事業方針等を率直に意見交換する場として機能しております。

ロ．企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役による監査体制の強化を図ることにより、コーポレートガバナンスの実効性を確保することが当社グループにとって合理的であると判断し、監査役設置会社の形態を採用しております。

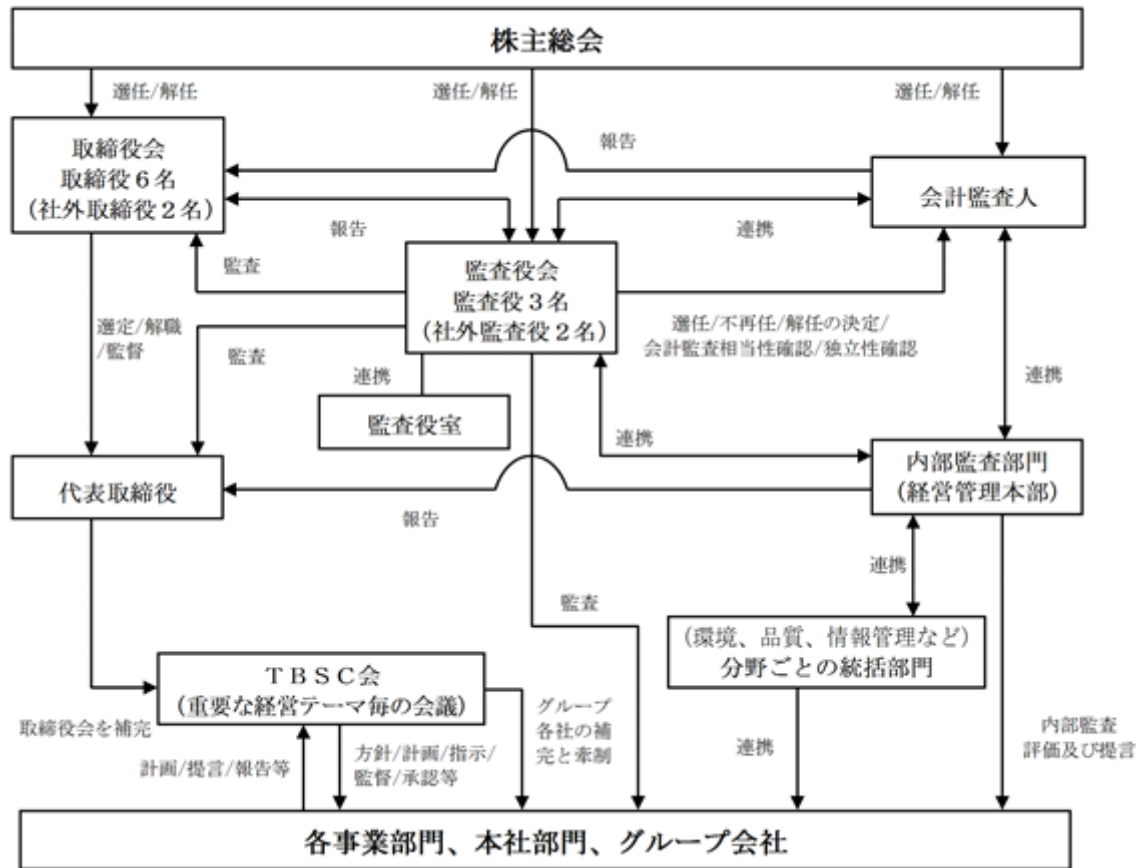
取締役会については、当社グループ事業に精通した取締役で構成し、運営することにより取締役の客観性及び中立性を確保しております。社外監査役は適正性監査に留まらず、外部者の立場から取締役会等で広範囲に積極的に意見し、社外取締役は業務執行者である取締役に対し経営全般について助言を行っており、求められる役割は現在充分果たしていると判断しております。

以上のことから、当社は現状のコーポレート・ガバナンス体制により、透明性・健全性の高い経営体制が構築できていると考えております。

八．各機関の人員構成

- １．取締役会：村田三郎代表取締役会長兼社長（議長）、中野義雄常務取締役、布川文保取締役、武田利信取締役、谷正行社外取締役、中島義雄社外取締役
- ２．監査役会：信岡孝一常勤監査役（議長）、榎卓生社外監査役、村松謙一社外監査役
- ３．T B S C会：村田三郎代表取締役会長兼社長（議長）、中野義雄常務取締役、布川文保取締役、武田利信取締役、谷正行社外取締役、中島義雄社外取締役、信岡孝一常勤監査役、榎卓生社外監査役、村松謙一社外監査役、子会社及び関連会社社長

二．コーポレート・ガバナンス体制の概要



企業統治に関するその他の事項

イ．内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムといたしましては、当社及び子会社を含む企業集団はその事業目的と経営方針を組織全体が周知徹底し、一体となって企業価値を高めるため、経営トップを推進の責任者として内部統制システムの構築と継続的な体制整備に取り組んでまいります。

具体的には以下の方針に沿い整備いたします。

- １．当社及び子会社の取締役、使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保する為の体制について
コンプライアンス総括責任者として当社代表取締役社長を任命し、取締役会、監査役会の機能強化と「倫理規範」、「内部通報制度規程」等を整備してまいります。
- ２．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況について
当社及びグループ各社は反社会的勢力や団体に対して毅然とした態度・行動で臨み、一切の関係を遮断します。「倫理規範」にその旨を明文化し当社及びグループ各社の役職員全員に周知徹底するとともに、平素より関係行政機関などからの情報収集に努め、事案の発生時には関係行政機関や法律の専門家と緊密に連絡を取り、組織全体として速やかに対処できる体制を整備してまいります。
- ３．取締役の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
取締役の職務執行に係る情報については、法令及び「文書管理規程」に基づき適正に保管し、必要な場合本社において速やかに閲覧が可能となるよう体制を整備してまいります。
- ４．当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
リスク管理に関する総括責任者に当社代表取締役社長を任命し、「リスク管理規程」をはじめ関連規程を整備するとともに、当社及びグループ各社で不測の事態が発生した場合に迅速かつ適正に対応する危機管理体制の確立をはかります。

- ５．当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行なわれることを確保するための体制
当社及びグループ各社の取締役会は、中期経営計画および年次経営計画を策定し、当社代表取締役並びに当社及びグループ各社の取締役及び執行役員は各社の目標達成に向け職務を遂行し、当社取締役会が実績管理を行います。また、当社及びグループ各社の職務遂行の基準となる、「職務権限規程」等の規程の整備を行います。
 - ６．当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
「子会社管理規程」に基づき子会社を含めたコンプライアンス体制、リスク管理体制を整備するとともに、監査役会、会計監査人との連携のもと、内部監査の拡充を図ってまいります。
 - ７．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制とその使用人の取締役からの独立性に関する事項
現在監査役の職務を補助する専任の使用人はおりませんが、今後監査役より要請のある場合は、協議に基づき設置を検討してまいります。また、使用人の指揮権、人事権等についてはその独立性を確保してまいります。
 - ８．当社及び子会社の取締役及び使用人が当社監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制及びその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
取締役会は業務執行状況について監査役会へ定期的に報告を行うとともに、重要な事実については発生の都度報告を行います。また、監査役会は代表取締役社長と定期的な会合を持つほか、会計監査人と定期的な会合を持ち、監査の実効性を高めてまいります。
 - ９．前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
監査役に報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保する体制を構築いたします。
 - １０．監査役がその職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
監査役が、その職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理いたします。
- ロ．当社と社外取締役及び社外監査役との間における責任限定契約の内容の概要
- 当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第１項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、100万円以上であらかじめ定めた金額または法令が規定する額のいずれか高い額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役または監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。
- ハ．役員等賠償責任保険契約の内容の概要
- 当社は保険会社との間で、当社および当社の子会社取締役および監査役を被保険者とした会社法第430条第3項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しています。補填の対象は、会社訴訟、第三者訴訟、株主代表訴訟等により被保険者が負担することとなった訴訟費用及び損害賠償金等を対象としており、被保険者の職務執行の適正性が損なわれないようにするため、被保険者による犯罪行為等に起因する損害等については対象外としています。なお、当該契約の保険料は被保険者が一部負担しております。
- 二．リスク管理体制の整備の状況
- 企業活動の「倫理規範」および個人情報保護などの「経営危機管理規程」を定め、全社員へ周知徹底し、倫理違反・法令違反等の事前予防を図るとともに、品質管理委員会によるメーカーとしての製品品質の向上、改善活動またクレーム等への適切な対応により、リスク対応を徹底させております。また、複数の法律事務所と顧問契約を締結し、重要な契約等当社の経営成績に影響を及ぼす重要事項につきましては専門家の意見を聞くなどリスク管理体制をとっております。

取締役会等の活動状況

当事業年度において、当社は取締役会を13回開催しており、個々の取締役の出席状況は以下の通りであります。

氏 名	開催回数	出席回数
村田 三郎	13回	13回
中野 義雄	13回	13回
布川 文保	13回	13回
武田 利信	13回	13回
谷 正行	13回	11回
中島 義雄	13回	13回

取締役会における具体的な検討内容としては、取締役会付議事項に該当する審議以外に、当社グループの販売体制や環境の変化に対応するための製造体制など、当社事業の現状や課題について協議しております。また、当社グループの経営執行の監視等を行うとともに、取締役候補者の決定、予算の進捗と修正等の重要な承認をしております。

定款において定めている事項

- ・株主総会における取締役の選任決議について、議決権を行使することが出来る株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、および取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。
 - ・自己の株式を必要とする場合に対応が出来るよう、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨定款に定めております。
 - ・会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することが出来る株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。
- これは、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 9名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長兼社長	村田 三郎	1947年 1 月16日生	1969年 4 月 船井電機(株)入社 1978年12月 (株)ビッグサンズ設立代表取締役社長 2006年 6 月 当社取締役 2006年10月 当社取締役会長 2007年 6 月 当社代表取締役会長兼社長 (現任) 2021年 9 月 (株)スマートヘルスネット代表取締役 (現任)	(注) 4	292
常務取締役 事業推進本部長	中野 義雄	1966年11月23日生	1995年10月 当社入社 2005年 5 月 当社営業統括本部流通情報システム 事業統括部営業戦略室室長 2007年10月 当社執行役員経営推進本部商品部 部長 2009年11月 当社執行役員商品本部本部長 2012年 6 月 当社取締役商品戦略本部長 2014年 6 月 当社取締役 S A & N B 本部長 2017年 6 月 当社常務取締役事業推進本部長 (現任) 2019年 6 月 M A Y U D A M A (株)代表取締役社長 (現任)	(注) 4	8
取締役 経営管理本部長	布川 文保	1969年 6 月18日生	1990年 4 月 当社入社 2007年 5 月 当社管理本部管理部経理課長 2008年 7 月 当社経営管理本部管理部次長 2011年 7 月 当社経営管理本部管理部長 (現任) 2015年 5 月 (株)T O W A 監査役 (現任) 2019年 6 月 M A Y U D A M A (株)取締役 (現任) 2023年 6 月 当社取締役経営管理本部長 (現任)	(注) 4	3
取締役	武田 利信	1958年 9 月27日生	1981年 4 月 (株)ビッグサンズ入社 2000年 1 月 (株)ホスピタルネット入社 同社取締役 2005年 6 月 同社常務取締役 2007年 6 月 同社代表取締役社長 (現任) 2015年 6 月 当社取締役 (現任) 2016年 1 月 (株)M ビジュアル取締役	(注) 4	-
取締役	谷 正行	1949年 1 月 1 日生	1972年 4 月 伊藤忠商事(株)入社 1985年10月 RICOH CORPORATION (米国) 副社長 1994年 5 月 レックスマークインターナショナル (株)代表取締役社長 1996年11月 (株)ハイパーマーケティング設立代表 取締役社長 2002年 6 月 船井電機(株)取締役 2007年 3 月 (株)ハイパーマーケティング代表取締 役社長 (現任) 2015年 6 月 当社社外取締役 (現任) 2019年 1 月 (株)T O W A 取締役 2019年 6 月 M A Y U D A M A (株)取締役	(注) 4	-
取締役	中島 義雄	1942年 3 月30日生	1993年 6 月 大蔵省 (現財務省) 主計局次長 2000年 3 月 京セラミタ(株)代表取締役専務 2005年 6 月 船井電機(株)取締役執行役副社長 2009年12月 セーラー万年筆(株)代表取締役社長 2017年 6 月 当社社外取締役 (現任) 2018年 2 月 (株)K エナジー代表取締役	(注) 4	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	信岡 孝一	1950年 6 月18日生	1978年12月 ㈱ビックサンズ入社 2000年 6 月 同社常務取締役営業本部長 2008年 6 月 当社取締役国内事業本部長 2011年11月 当社取締役経営管理本部長 2012年 6 月 当社常務取締役経営管理本部長 2023年 6 月 当社顧問 2024年 6 月 当社常勤監査役（現任）	(注) 5	22
監査役	榎 卓生	1963年 2 月23日生	1985年10月 太田昭和監査法人（現ＥＹ新日本有 限責任監査法人）入所 1989年 3 月 公認会計士登録 1997年 4 月 榎公認会計士・税理士事務所開業 1998年 6 月 ＳＰＫ㈱社外監査役 2000年 1 月 ㈱マネージメントリファイン代表取 締役 2002年10月 税理士法人大手前総合事務所代表社 員（現任） 2005年 9 月 ㈱きちり（現㈱きちりホールディ ングス）社外監査役（現任） 2011年 6 月 当社社外監査役（現任） 2016年 9 月 ㈱アイ・ビー・エス社外取締役 （現任） 2024年 4 月 ㈱マネージメントリライアンス代表 取締役（現任）	(注) 3	17
監査役	村松 謙一	1954年 5 月 5 日生	1983年 4 月 東京弁護士会登録 清水直法律事務所入所 1990年 4 月 村松謙一法律事務所（現光麗法律事 務所）開設 同所長（現任） 2001年12月 参議員「財政金融委員会」参考人 （第153回国会） 2003年 4 月 東京弁護士会倒産法部部長 2015年 6 月 当社社外監査役（現任）	(注) 3	-
計					344

（注） １．取締役谷正行及び中島義雄は、社外取締役であります。
２．監査役榎卓生及び村松謙一は、社外監査役であります。
３．2023年 6 月29日開催の定時株主総会の終結の時から 4 年間であります。
４．2025年 6 月27日開催の定時株主総会の終結の時から 1 年間であります。
５．2024年 6 月27日開催の定時株主総会の終結の時から 3 年間であります。

社外役員の状況

イ．社外取締役・社外監査役の機能・役割、選任状況についての考え方

当社は、独立性を保ち中立な立場から客観的に取締役の業務執行に対する監視機能を発揮していただくことを目的として、提出日現在、社外取締役を 2 名選任しております。取締役谷正行氏は企業経営において豊富な経験と幅広い知見を当社の経営に活かしていただくとともに、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、当社取締役会において的確な提言・助言をいただけるものと考えております。取締役中島義雄氏は企業経営において豊富な経験と幅広い知見を当社の経営に活かしていただくとともに、業務執行を行う経営陣から独立した客観的立場で、当社取締役会において的確な提言・助言をいただけるものと考えております。

また、監査役に関しましては、独立性を保ち中立な立場から客観的に監査を実施していただくことを目的として、提出日現在、社外監査役を 2 名選任しております。監査役榎卓生氏は、公認会計士としての専門的な知識・経験に基づき、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するために必要な発言を適宜行っております。また、監査役会において、当社の内部監査等について必要な発言を適宜行っております。監査役村松謙一氏は、弁護士としての専門的な知識・経験に基づき、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するために必要な発言をいただけることができるものと考えております。また監査役会において、当社の内部監査等について必要な発言をいただけることができるものと考えております。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

ロ．当社と当社の社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係の概要

社外監査役である榎卓生氏は、当社株式を17,707株所有しております。社外取締役である谷正行氏については、同氏が代表取締役社長を兼務している㈱ハイパーマーケティングと当社の間に特別の利害関係はございません。社外監査役榎卓生氏については、同氏が代表取締役を兼務している㈱マネージメントリライアンスと当社の間に特別の利害関係はございません。社外監査役村松謙一氏については、同氏が所長を兼務している光麗法律事務所と当社の間で弁護士委任契約を締結しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、外部的視点から、取締役の業務執行に対する監視機能を発揮することが期待されており、社外監査役につきましては、社内監査役と意思疎通を十分に図って連携し、内部統制部門からの各種報告を受け、監査役会での十分な議論を踏まえて監査を行っております。また、会計監査人と定期的に会合を持つなど、緊密な連携を保ち、意見及び情報交換を行っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社は監査役制度を採用しております。監査役の人数は提出日現在、社外監査役 2 名を含む 3 名であり、監査役会において決定した監査方針、監査計画並びに職務分担等に従い監査業務を遂行しております。

当事業年度において当社は監査役会を13回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏 名	開催回数	出席回数
信岡 孝一	10回	10回
榎 卓生	13回	13回
村松 謙一	13回	12回
谷口 啓一	3 回	0 回

監査役会における具体的な検討内容として、取締役会・その他重要会議等の重要な意思決定会議における付議事項の妥当性、手続きの適法性や、連結計算書類及び計算書類等の監査の適正性の確保などがあります。

また、常勤監査役の活動として、取締役会、その他重要会議に出席し適宜意見を述べるほか、業務執行における適法性・妥当性の監査を行なっております。また、各執行部門の特性に応じたテーマ及び重点監査項目に沿って、担当役員あるいは部門管理責任者へのヒアリングを中心に情報の収集と問題点を把握し、必要に応じて指摘事項や助言等の監査意見を伝達するなど監査の実効性に努め、コーポレート・ガバナンスの強化を図っております。

内部監査の状況

内部監査部門は監査役および会計監査人と情報交換やお互いの監査に同行するなどして連携を図っております。なお、内部監査については、現在組織規模が小さいため常設組織は置かず、社長直轄のタスクフォースにより、監査役会や会計監査人と連携をとりつつ、重要な勘定科目等の監査を実施するほか、社内の内部統制システムが適正に運用されているか確認を行っております。監査終了後、代表取締役やその他取締役への報告を行い、被監査部門に対し改善を求めます。

会計監査の状況

a．監査法人の名称

監査法人まほろば

b．継続監査期間

17年間

c．業務を執行した公認会計士

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、公認会計士土屋洋泰、公認会計士赤坂知紀であり、監査法人まほろばに所属しております。

d．監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士 5 名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人候補者から、監査法人の概要、監査の実施体制等、監査報酬の見積額についての書面を入手し、面談、質問等を通じて、当社グループのビジネスの内容やリスクに対する理解、関係法令の遵守、独立性確保、品質管理維持・向上、経営者や監査役等とのコミュニケーションを含む業務提供体制が十分であると評価し監査法人を選定いたしました。

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出します。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f. 会計監査人の評価

監査役会は、会計監査人に関する当社の評価基準を定めており、会計監査人の独立性や職務遂行体制、会計監査の実施状況や品質管理について評価を行っています。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,900	-	20,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	20,900	-	20,000	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査公認会計士等に対する監査報酬を決定するにあたり、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査工数等の妥当性を勘案、協議し、会社法第399条に基づき、監査役会の同意を得た上で決定することとしています。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りなどが当社の事業規模や事業内容に適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に関する事項

当社は2021年2月12日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る基本方針を定めております。その内容は、株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、経営内容、経済情勢、役位職責等を考慮して、基本方針を決定し、取締役の報酬は取締役会の決議により代表取締役会長兼社長村田三郎が総額及び個人配分も含めて決定する権限の委任を受けるものとします。これらの権限を委任した理由は、当社全体の業務を俯瞰しつつ各取締役の担当事業の評価を行うには、代表取締役会長兼社長が最も適しているからであります。監査役の報酬は株主総会決議に基づく報酬限度額内で、監査役の協議により決定しております。

取締役の報酬限度額は、1990年5月2日開催の臨時株主総会での決議により、年額300百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)となっております。また、監査役の報酬限度額は1993年6月29日開催の第59回定時株主総会での決議により、年額30百万円以内となっております。

なお、当事業年度における提出会社の役員の報酬等は金銭による基本報酬のみであり、また、当社役員の報酬等の額の決定過程における取締役の活動は、2020年6月26日の取締役会において、取締役会の決議により委任された代表取締役会長兼社長村田三郎が報酬等の総額及び個人配分も含めて決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	28,531	28,531	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く。)	3,510	3,510	-	-	2
社外役員	12,312	12,312	-	-	4

役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分については、取引先企業であり、企業活動をより理解することと株価変動や配当による利益の受取りを目的としたものを純投資目的の投資株式とし、それ以外の株式や非上場株式を純投資目的以外の目的である投資株式として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引先等との関係維持が当社の中長期的な事業戦略に必要であり、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断される場合に限り、当該取引先の信用力、安全性等を検証したうえで、株式の政策保有を行います。政策保有を行う場合には、毎年、取締役会で個別の政策保有株式について、その保有目的・合理性、資金活用方法及びリスクの観点から多面的に検証し、保有目的、合理性等が希薄化した場合には、政策保有株式を縮減いたします。また、投資先企業については、定期的に各種法令遵守状況や反社会的行為等に関するチェックを行い、議決権行使にあたっては、各議案について保有目的との整合性のみならず、成長性、あるいは当社の企業価値の向上に資するかどうか等を総合的に勘案して賛否を決定いたします。

- b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	18	8,981
非上場株式以外の株式	1	3,752

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	-	-	-

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	1	2,184

c．特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数（株）	株式数（株）		
	貸借対照表計上額 （千円）	貸借対照表計上額 （千円）		
エムケー精工(株)	7,900	11,900	商品購買の円滑な取引関係を維持するた めに取得後、継続保有	有
	3,752	5,128		

（注）定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は、保有目的、経済合理性、取引状況により
検証しております。

第５【経理の状況】

１．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、連結会計年度（2024年４月１日から2025年３月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2024年４月１日から2025年３月31日まで）の財務諸表について、監査法人まほろばにより監査を受けております。

３．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組を行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構の行うセミナーへ参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	325,917	256,766
受取手形、売掛金及び契約資産	² 217,904	² 300,819
商品及び製品	386,286	327,696
原材料及び貯蔵品	182,362	196,954
その他	61,821	77,038
貸倒引当金	10,548	12,831
流動資産合計	1,163,743	1,146,445
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	362,059	364,959
減価償却累計額	325,223	332,648
建物及び構築物（純額）	36,835	32,310
機械装置及び運搬具	20,465	20,198
減価償却累計額	19,900	20,030
機械装置及び運搬具（純額）	564	167
工具、器具及び備品	288,418	298,181
減価償却累計額	264,874	278,244
工具、器具及び備品（純額）	23,543	19,937
賃貸資産	275,585	186,142
減価償却累計額	272,773	185,641
賃貸資産（純額）	2,812	501
土地	33,794	33,794
リース資産	-	7,032
減価償却累計額	-	820
リース資産（純額）	-	6,211
有形固定資産合計	97,551	92,923
無形固定資産		
その他	23,681	21,647
無形固定資産合計	23,681	21,647
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 219,408	^{1, 3} 232,446
長期貸付金	16,958	-
差入保証金	98,219	97,858
長期未収入金	117,468	-
破産更生債権等	-	134,427
その他	42,569	45,573
貸倒引当金	209,112	209,112
投資その他の資産合計	285,511	301,193
固定資産合計	406,744	415,764
資産合計	1,570,487	1,562,209

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	125,493	84,821
短期借入金	100,000	302,558
1 年内返済予定の長期借入金	34,305	29,688
未払費用	95,172	88,375
未払法人税等	15,272	16,901
未払消費税等	24,512	30,518
賞与引当金	17,597	25,983
その他	27,414	56,546
流動負債合計	439,768	635,394
固定負債		
長期借入金	223,385	214,038
繰延税金負債	468	429
退職給付に係る負債	69,784	76,066
その他	38,415	31,763
固定負債合計	332,053	322,297
負債合計	771,822	957,691
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,057,959	1,057,959
資本剰余金	625,048	625,048
利益剰余金	824,566	1,018,065
自己株式	59,063	59,081
株主資本合計	799,378	605,861
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,214	1,342
その他の包括利益累計額合計	1,214	1,342
非支配株主持分	501	-
純資産合計	798,665	604,518
負債純資産合計	1,570,487	1,562,209

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高	1 2,304,783	1 2,329,863
売上原価	2 966,021	2 993,228
売上総利益	1,338,761	1,336,634
販売費及び一般管理費	3, 4 1,561,727	3, 4 1,533,013
営業損失()	222,965	196,379
営業外収益		
受取利息	2	38
受取配当金	119	95
受取手数料	724	456
為替差益	-	3,111
助成金収入	2,960	-
持分法による投資利益	6,471	14,769
その他	2,949	1,488
営業外収益合計	13,226	19,960
営業外費用		
支払利息	3,742	6,476
支払手数料	6,978	3,110
為替差損	8,111	-
その他	1,730	708
営業外費用合計	20,562	10,294
経常損失()	230,300	186,713
特別利益		
固定資産売却益	-	18
投資有価証券売却益	-	952
受取保険金	-	4,000
特別利益合計	-	4,970
特別損失		
固定資産除却損	5 5,491	-
その他	480	-
特別損失合計	5,972	-
税金等調整前当期純損失()	236,273	181,743
法人税、住民税及び事業税	9,769	12,257
法人税等合計	9,769	12,257
当期純損失()	246,042	194,000
非支配株主に帰属する当期純損失()	1,726	501
親会社株主に帰属する当期純損失()	244,315	193,499

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
当期純損失（ ）	246,042	194,000
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	536	128
その他の包括利益合計	536	128
包括利益	245,505	194,129
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	243,779	193,627
非支配株主に係る包括利益	1,726	501

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	988,093	555,182	580,250	59,050	903,974
当期変動額					
新株の発行 （新株予約権の行使）	69,866	69,866			139,732
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			244,315		244,315
自己株式の取得				12	12
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	69,866	69,866	244,315	12	104,595
当期末残高	1,057,959	625,048	824,566	59,063	799,378

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,751	1,751	1,899	2,228	906,351
当期変動額					
新株の発行 （新株予約権の行使）					139,732
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）					244,315
自己株式の取得					12
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	536	536	1,899	1,726	3,089
当期変動額合計	536	536	1,899	1,726	107,685
当期末残高	1,214	1,214	-	501	798,665

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,057,959	625,048	824,566	59,063	799,378
当期変動額					
新株の発行 （新株予約権の行使）					-
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）			193,499		193,499
自己株式の取得				18	18
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	193,499	18	193,517
当期末残高	1,057,959	625,048	1,018,065	59,081	605,861

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,214	1,214	-	501	798,665
当期変動額					
新株の発行 （新株予約権の行使）					-
親会社株主に帰属する 当期純損失（ ）					193,499
自己株式の取得					18
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	128	128	-	501	629
当期変動額合計	128	128	-	501	194,147
当期末残高	1,342	1,342	-	-	604,518

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 ()	236,273	181,743
減価償却費	41,836	30,703
貸倒引当金の増減額 (は減少)	4,140	2,282
賞与引当金の増減額 (は減少)	558	8,385
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	5,812	6,281
受取利息及び受取配当金	121	134
支払利息	3,742	6,476
為替差損益 (は益)	1,329	166
持分法による投資損益 (は益)	6,471	14,769
有形固定資産売却損益 (は益)	-	18
有形固定資産除却損	5,504	15
棚卸資産除却損	6,565	12,342
棚卸資産評価損	6,227	4,753
投資有価証券売却損益 (は益)	-	952
売上債権の増減額 (は増加)	30,861	49,433
棚卸資産の増減額 (は増加)	59,564	26,901
仕入債務の増減額 (は減少)	20,250	49,576
未払消費税等の増減額 (は減少)	7,882	6,709
未払費用の増減額 (は減少)	12,189	2,502
その他の流動資産の増減額 (は増加)	3,989	4,142
その他の流動負債の増減額 (は減少)	18,268	14,134
その他	3,200	5,326
小計	258,875	218,048
利息及び配当金の受取額	121	489
利息の支払額	3,750	7,397
法人税等の支払額又は還付額 (は支払)	8,783	15,004
営業活動によるキャッシュ・フロー	271,287	239,960
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	0	0
投資有価証券の売却による収入	-	2,161
有形固定資産の取得による支出	22,602	12,678
有形固定資産の売却による収入	-	18
無形固定資産の取得による支出	8,932	3,980
保険積立金の解約による収入	22,581	-
差入保証金の差入による支出	18,877	15
差入保証金の回収による収入	4,317	10
その他	2,910	2,545
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,422	17,030
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (は減少)	-	202,558
長期借入れによる収入	10,000	45,000
長期借入金の返済による支出	11,110	58,964
自己株式の取得による支出	12	18
リース債務の返済による支出	-	902
割賦債務の返済による支出	350	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	137,832	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	136,359	187,673
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,329	166
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	160,021	69,150
現金及び現金同等物の期首残高	483,938	323,917
現金及び現金同等物の期末残高	323,917	254,766

【注記事項】

（継続企業の前提に関する事項）
該当事項はありません。

（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）

１．連結の範囲に関する事項

（１）連結子会社の数 ９社

（株）スマートヘルスネット

（株）ＴＯＷＡ 他７社

（２）非連結子会社の数 ０社

２．持分法の適用に関する事項

（１）持分法適用の関連会社数 １社

（株）ホスピタルネット

（２）持分法を適用していない関連会社数 １社

東和レジスター北都販売（株）

持分法を適用していない関連会社１社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるため持分法の適用範囲から除外しております。

（３）持分法の適用範囲の変更

（株）エムモビリティは、当社が所有する同社株式の全てを売却したことにより、持分法の適用範囲から除いております。

３．連結子会社の事業年度等に関する事項

全ての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

４．会計方針に関する事項

（１）重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

ロ デリバティブ

時価法

ハ 棚卸資産

評価基準は原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価の切り下げの方法）によっております。

（イ）商品及び製品

商品・製品

移動平均法による原価法

販売用不動産

個別法による原価法

（ロ）原材料

移動平均法による原価法

（２）重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年４月１日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び2016年４月１日以降に取得した建物附属設備及び構築物、並びに賃貸資産については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 7～38年

工具、器具及び備品 2～8年

賃貸資産 3～10年

- 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法
なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（３～５年）に基づく定額法を採用しております。
- ハ リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- イ 貸倒引当金
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ 賞与引当金
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
当社及び連結子会社の主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。
電子レジスター及びＰＯＳシステム、ＬＥＤデジタルサイネージの販売においては、顧客と約束した仕様及び品質の電子レジスター等を提供することを履行義務として識別しております。これらの履行義務は検収を受けた時点において充足されると判断し収益を認識しております。なお、一部商製品については出荷時から当該商製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため出荷時点で収益を認識しております。
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
- (7) のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、１０年以内の合理的な期間で均等償却しております。ただし、金額が僅少の場合には、発生会計年度中に全額償却しております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から３ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
- イ 繰延資産の処理方法
株式交付費及び新株予約権発行費は、支出時に全額費用として処理しております。
- （重要な会計上の見積り）
会計上の見積りにより当連結会計年度及び前連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものではありません。
- （会計方針の変更）
該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日 企業会計基準委員会)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日 企業会計基準委員会) 等

(1) 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用权資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中があります。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
投資有価証券(株式)	130,263千円	144,677千円

2 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
受取手形	1,075千円	1,087千円
売掛金	216,828	299,732
契約資産	-	-

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
投資有価証券	- 千円	144,677千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
短期借入金	- 千円	100,000千円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(セグメント情報等)」に記載しております。

2 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
	6,227千円	4,753千円

3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
販売促進費	6,789千円	5,749千円
輸出諸掛・荷造運搬費	22,566	23,266
従業員給与・賞与	689,909	685,451
賞与引当金繰入額	15,733	22,288
退職給付費用	20,238	16,048
不動産賃借料	113,431	104,565
業務委託費	166,949	145,127
減価償却費	19,467	17,053
貸倒引当金繰入額	745	2,282
旅費交通費	56,693	57,997

4 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
6,774千円	8,346千円

5 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
建物及び構築物	491千円	- 千円
撤去費用	5,000	-
計	5,491	-

(連結包括利益計算書関係)
その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	773千円	807千円
組替調整額	-	974
法人税等及び税効果調整前	773	166
法人税等及び税効果額	236	38
その他有価証券評価差額金	536	128
その他の包括利益合計	536	128

(連結株主資本等変動計算書関係)
前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式 (注) 1	13,065,642	931,300	-	13,996,942
合計	13,065,642	931,300	-	13,996,942
自己株式				
普通株式 (注) 2	318,365	44	-	318,409
合計	318,365	44	-	318,409

(注) 1 ．普通株式の発行済株式総数の増加931,300株は新株予約権の行使による新株の発行によるものであります。
2 ．普通株式の自己株式の株式数の増加44株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2 ．新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数 (株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	第 2 回新株予約権	普通株式	931,300	-	931,300	-	-
合計		-	931,300	-	931,300	-	-

(注) 第 2 回新株予約権の当連結会計年度減少は、権利行使によるものであります。

３．配当に関する事項

該当する事項はありません。

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

１．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	13,996,942	-	-	13,996,942
合計	13,996,942	-	-	13,996,942
自己株式				
普通株式（注）	318,409	112	-	318,521
合計	318,409	112	-	318,521

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加112株は、単元未満株式の買取による増加であります。

２．新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当する事項はありません。

３．配当に関する事項

該当する事項はありません。

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）	当連結会計年度 （自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）
現金及び預金勘定	325,917千円	256,766千円
預入期間が3か月を超える定期預金	2,000	2,000
現金及び現金同等物	323,917	254,766

（リース取引関係）

（借主側）

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2024年3月31日）	当連結会計年度 （2025年3月31日）
1年内	15,000	15,000
1年超	50,000	35,000
合計	65,000	50,000

(金融商品関係)

１．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式等であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが１ヶ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されております。

借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済期間は最長で連結決算日後10年であります。借入金は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権等について各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

借入金の支払金利の変動リスクを回避するため、固定金利により借入を行っております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社においても、同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2024年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 受取手形及び売掛金	217,904		
貸倒引当金 (*2)	1,138		
	216,766	216,766	-
(2) 投資有価証券	5,128	5,128	-
資産計	221,895	221,895	-
(1) 支払手形及び買掛金	125,493	125,493	-
(2) 未払費用	95,172	95,172	-
(3) 短期借入金	100,000	100,000	-
(4) 長期借入金 (*3)	257,690	257,690	-
負債計	578,356	578,356	-

(*1)「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2)「受取手形及び売掛金」に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*3)連結貸借対照表の1年内返済予定の長期借入金（連結貸借対照表計上額34,305千円）は、上表「長期借入金」に含めております。

(*4)市場価格のない株式等は、「(2)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	139,594
非上場債券	74,685

当連結会計年度（2025年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
(1) 受取手形及び売掛金	300,819		
貸倒引当金 (*2)	1,694		
	299,125	299,125	-
(2) 投資有価証券	3,752	3,752	-
資産計	302,877	302,877	-
(1) 支払手形及び買掛金	84,821	84,821	-
(2) 未払費用	88,375	88,375	-
(3) 短期借入金	302,558	302,558	-
(4) 長期借入金 (*3)	243,726	234,418	9,307
負債計	719,481	710,174	9,307

(*1)「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(*2)「受取手形及び売掛金」に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*3)連結貸借対照表の1年内返済予定の長期借入金（連結貸借対照表計上額29,688千円）は、上表「長期借入金」に含めております。

(*4)市場価格のない株式等は、「(2)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	154,008
非上場債券	74,685

(注) 1. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	325,917	-	-	-
受取手形及び売掛金	217,904	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	-	-
(2) その他	-	-	-	-
合計	543,821	-	-	-

当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	256,766	-	-	-
受取手形及び売掛金	300,819	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	-	-
(2) その他	-	-	-	-
合計	557,586	-	-	-

2. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	100,000	-	-	-	-	-
長期借入金	34,305	35,688	48,552	48,022	22,079	69,044
合計	134,305	35,688	48,552	48,022	22,079	69,044

当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	302,558	-	-	-	-	-
長期借入金	29,688	42,552	40,772	24,686	29,829	76,199
合計	332,246	42,552	40,772	24,686	29,829	76,199

３．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の３つのレベルに分類しております。

レベル１の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル２の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル１のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル３の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(１) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2024年３月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	5,128	-	-	5,128
資産計	5,128	-	-	5,128

当連結会計年度（2025年３月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル１	レベル２	レベル３	合計
投資有価証券				
其他有価証券				
株式	3,752	-	-	3,752
資産計	3,752	-	-	3,752

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
前連結会計年度(2024年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
受取手形及び売掛金	-	216,766	-	216,766
資産計	-	216,766	-	216,766
支払手形及び買掛金	-	125,493	-	125,493
未払費用	-	95,172	-	95,172
短期借入金	-	100,000	-	100,000
長期借入金	-	257,690	-	257,690
負債計	-	578,356	-	578,356

当連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
受取手形及び売掛金	-	299,125	-	299,125
資産計	-	299,125	-	299,125
支払手形及び買掛金	-	84,821	-	84,821
未払費用	-	88,375	-	88,375
短期借入金	-	302,558	-	302,558
長期借入金	-	234,418	-	234,418
負債計	-	710,174	-	710,174

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

受取手形及び売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに、債権額と満期までの期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

支払手形及び買掛金、未払費用、短期借入金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債務ごとに、その将来キャッシュ・フローと、返済期日までの期間及び信用リスクを加味した利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2024年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	5,128	3,598	1,530
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	5,128	3,598	1,530
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		5,128	3,598	1,530

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額9,331千円)及び非上場債券(連結貸借対照表計上額74,685千円、貸倒引当金計上額74,685千円)については、市場価格のない株式等に該当しているため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2025年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	3,752	2,388	1,363
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,752	2,388	1,363
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		3,752	2,388	1,363

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額9,331千円)及び非上場債券(連結貸借対照表計上額74,685千円、貸倒引当金計上額74,685千円)については、市場価格のない株式等に該当しているため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

２．売却したその他有価証券
前連結会計年度（自 2023年４月１日 至 2024年３月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2024年４月１日 至 2025年３月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	2,184	952	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	2,184	952	-

（デリバティブ取引関係）
前連結会計年度（自 2023年４月１日 至 2024年３月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2024年４月１日 至 2025年３月31日）
該当事項はありません。

（退職給付関係）

１．採用している退職給付制度の概要
当社及び一部の連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。
なお、当社及び一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

２．簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 （自 2023年４月１日 至 2024年３月31日）	当連結会計年度 （自 2024年４月１日 至 2025年３月31日）
退職給付に係る負債の期首残高	75,597千円	69,784千円
退職給付費用	13,716	9,155
退職給付の支払額	19,253	2,517
制度への拠出額	276	356
退職給付に係る負債の期末残高	69,784	76,066

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
積立型制度の退職給付債務	5,370千円	6,138千円
年金資産	1,706	2,042
	3,664	4,095
非積立型制度の退職給付債務	66,119	71,970
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	69,784	76,066
退職給付に係る負債	69,784	76,066
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	69,784	76,066

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度13,840千円 当連結会計年度9,332千円

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度6,398千円、当連結会計年度6,452千円であります。

(税効果会計関係)

１．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (2025年 3 月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金 (注) 1	875,424千円	840,858千円
投資有価証券評価損	11,241	11,572
関係会社株式評価損	5,021	5,169
貸倒引当金	67,352	68,833
販売用不動産評価損	28,391	29,225
棚卸資産評価損	6,717	7,827
減損損失	15,515	13,421
研究開発費	4,241	-
退職給付に係る負債	21,367	23,957
長期前受収益	2,441	495
その他	17,694	22,487
繰延税金資産小計	1,055,409	1,023,849
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注) 1	875,424	840,858
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	179,985	182,991
評価性引当額小計	1,055,409	1,023,849
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	468	429
繰延税金負債合計	468	429
繰延税金負債の純額	468	429

(注) １．税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度 (2024年 3 月31日)

	1 年以内 (千円)	1 年超 2 年以内 (千円)	2 年超 3 年以内 (千円)	3 年超 4 年以内 (千円)	4 年超 5 年以内 (千円)	5 年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金 (1)	144,169	64,860	130,306	103,634	74,834	357,618	875,424
評価性引当額	144,169	64,860	130,306	103,634	74,834	357,618	875,424
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度 (2025年 3 月31日)

	1 年以内 (千円)	1 年超 2 年以内 (千円)	2 年超 3 年以内 (千円)	3 年超 4 年以内 (千円)	4 年超 5 年以内 (千円)	5 年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金 (2)	64,860	133,820	103,900	76,804	135,030	326,441	840,858
評価性引当額	64,860	133,820	103,900	76,804	135,030	326,441	840,858
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

(2) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

２．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度は、課税所得が発生していないため、注記を省略しております。

３．法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和 7 年法律第13号) が2025年 3 月31日に国会で成立したことに伴い、2026年 4 月 1 日以後開始する連結会計年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年４月１日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62％から31.52％に変更し計算しております。

この変更により、当連結会計年度の繰延税金負債の金額は12千円増加し、その他有価証券評価差額金が12千円減少しております。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

該当事項はありません。

（収益認識関係）

１．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

２．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）」に記載のとおりであります。

３．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

契約資産及び契約負債の残高等

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権(期首残高)	204,399千円	217,904千円
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	217,904	300,819
契約負債(期首残高)	21,659	10,720
契約負債(期末残高)	10,720	45,828

契約負債は、顧客との契約に基づき、履行義務を充足する前に受け取った前受金に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、10,205千円（前連結会計年度は19,976千円）であります。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

１．報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に事業部門を統括する事業統括本部を置き、各事業部門は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業」、「ＳＡ機器事業」の２つを報告セグメントとしております。

「ＬＥＤ＆ＥＣＯ事業」は、デジタルサイネージ・ＬＥＤ表示機・ＬＥＤイルミ／ＥＣＯ事業の企画・販売及び広告事業をしております。

「ＳＡ機器事業」は、ＰＯＳシステム・電子レジスター及び周辺機器・電子マネー関連機器、有料放送サービス、カプセル型宿泊施設向け製品、宿泊施設の運営、医療・健康分野関連への商材等の企画・製造・販売をしております。

２．報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

３．報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前連結会計年度（自2023年４月１日 至2024年３月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	L E D & E C O事業	S A機器事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,251,700	1,043,944	2,295,644	-	2,295,644
その他の収益 (注) 2	-	-	-	9,138	9,138
外部顧客への売上高	1,251,700	1,043,944	2,295,644	9,138	2,304,783
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	16,745	16,745
計	1,251,700	1,043,944	2,295,644	25,883	2,321,528
セグメント損失 ()	47,030	175,158	222,189	775	222,965
セグメント資産	686,487	610,982	1,297,470	3,839	1,301,310
その他の項目					
減価償却費	22,272	19,564	41,836	-	41,836
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	10,618	19,265	29,884	-	29,884

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル等の賃貸及び販売事業を含んでおります。

２．その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

３．当社グループでは、負債は報告セグメント別に配分していないため、開示を省略しております。

当連結会計年度（自2024年４月１日 至2025年３月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	L E D & E C O事業	S A機器事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,393,209	927,515	2,320,725	-	2,320,725
その他の収益 (注) 2	-	-	-	9,138	9,138
外部顧客への売上高	1,393,209	927,515	2,320,725	9,138	2,329,863
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	16,106	16,106
計	1,393,209	927,515	2,320,725	25,245	2,345,970
セグメント利益又は損失 ()	3,168	198,704	195,536	842	196,379
セグメント資産	824,096	520,706	1,344,802	3,839	1,348,642
その他の項目					
減価償却費	18,398	12,304	30,703	-	30,703
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	14,575	9,115	23,690	-	23,690

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル等の賃貸及び販売事業を含んでおります。

２．その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

３．当社グループでは、負債は報告セグメント別に配分していないため、開示を省略しております。

４．報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,295,644	2,320,725
「その他」の区分の売上高	25,883	25,245
セグメント間取引消去	16,745	16,106
連結財務諸表の売上高	2,304,783	2,329,863

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	222,189	195,536
「その他」の区分の損失（ ）	775	842
連結財務諸表の営業損失（ ）	222,965	196,379

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,297,470	1,344,802
「その他」の区分の資産	3,839	3,839
全社資産（注）	269,177	213,567
連結財務諸表の資産合計	1,570,487	1,562,209

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金、投資有価証券等であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	41,836	30,703	-	-	-	-	41,836	30,703
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	29,884	23,690	-	-	-	-	29,884	23,690

【関連情報】

前連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

１．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

（１）売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産はありません。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

当連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

１．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

２．地域ごとの情報

（１）売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

（２）有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産はありません。

３．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自2023年4月1日 至2024年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2024年4月1日 至2025年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自2023年 4 月 1 日 至2024年 3 月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有 （被所有）割合 （％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
関連会社	㈱エムモビリティ	東京都文京区	323,600	ドライブレコーダー事業	（所有） 直接 13.6 [18.2]	当社商品の販売資金の援助	-	-	長期未収入金 （注）3	117,468
							-	-	長期貸付金 （注）3	16,958

- （注）1. 議決権等の所有割合の欄における[]書きは、緊密な者又は同意している者の所有割合を外数で表示しております。
2. 資金の貸付及び借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
3. 関連会社㈱エムモビリティへの債権に対し、当連結会計年度において134,427千円の貸倒引当金を計上しております。

当連結会計年度（自2024年 4 月 1 日 至2025年 3 月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有 （被所有）割合 （％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
関連会社	㈱ホスピタルネット	東京都文京区	100,000	メディカルサポート事業	（所有） 直接 15.0 [72.0] （被所有） 直接 14.4	資金の借入	資金の借入	100,000	短期借入金	100,000

- （注）1. 議決権等の所有割合の欄における[]書きは、緊密な者又は同意している者の所有割合を外数で表示しております。
2. 関連会社㈱ホスピタルネットは、法人主要株主及び役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等にも該当しております。
3. 資金の貸付及び借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。
4. 関連会社㈱ホスピタルネットからの借入金に対し、投資有価証券144,677千円を担保に供しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有 （被所有）割合 （％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
役員	村田三郎	-	-	当社代表取締役会長兼社長	（被所有） 直接 2.0 間接19.4	債務被保証	当社借入に対する債務被保証 （注）	32,663	-	-

- （注）当社は銀行借入に対して代表取締役会長兼社長村田三郎より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。

当連結会計年度（自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日）

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
主要株主及び役員の支配会社	㈱ビッグサ ンズ	大阪府 大阪市北区	100,000	卸売業	(被所有) 直接 5.0 間接 14.4	資金の借入	資金の借入	45,000	短期借入金	45,000
							利息の支払	158	未払費用	158

(注) 1. ㈱ビッグサンズは、役員が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等にも該当しております。
2. 資金の借入については、再建支援を考慮した利率としております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 （千円）	事業の内容 又は職業	議決権等の所有（被所有） 割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 （千円）	科目	期末残高 （千円）
役員	村田三郎	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 2.1 間接 19.4	資金の借入	資金の借入	5,000	短期借入金	5,000

(注) 資金の借入については、金利の支払いはしていません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は株式会社ホスピタルネットであり、その要約財務情報は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	株式会社ホスピタルネット	
	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	942,423	680,333
固定資産合計	1,703,564	1,812,954
流動負債合計	729,930	631,058
固定負債合計	681,769	637,832
純資産合計	1,234,907	1,224,707
売上高	1,659,190	1,718,702
税引前当期純利益	53,809	102,104
当期純利益	43,132	98,457

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
1 株当たり純資産額	58.35円	44.20円
1 株当たり当期純損失 ()	17.89円	14.15円

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、1 株当たり当期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失 () (千円)	244,315	193,499
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失 () (千円)	244,315	193,499
期中平均株式数 (千株)	13,658	13,678
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益の算定に含めなかった 潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	100,000	302,558	3.032	-
１年以内に返済予定の長期借入金	34,305	29,688	1.529	-
１年以内に返済予定のリース債務	-	1,547	-	-
長期借入金（１年以内に返済予定のものを除く。）	223,385	214,038	1.769	2026年～2034年
リース債務（１年以内に返済予定のものを除く。）	-	5,285	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	357,690	553,117	-	-

（注）１．「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

２．リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

３．長期借入金（１年以内に返済予定のものを除く。）およびその他有利子負債の連結決算日後５年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	１年超２年以内 (千円)	２年超３年以内 (千円)	３年超４年以内 (千円)	４年超５年以内 (千円)
長期借入金	42,552	40,772	24,686	29,829

【資産除去債務明細表】

資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担の属する金額を費用計上する方法を採用しているため、該当事項はありません。

（２）【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高（千円）	1,125,748	2,329,863
税金等調整前中間（当期）純損失（ ）（千円）	121,173	181,743
親会社株主に帰属する中間（当期）純損失（ ）（千円）	128,613	193,499
１株当たり中間（当期）純損失（ ）（円）	9.40	14.15

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	260,667	212,327
受取手形	1,075	1,087
売掛金	1 207,128	1 233,625
商品及び製品	358,276	302,067
原材料及び貯蔵品	182,176	196,767
短期貸付金	1 14,065	1 2,460
その他	1 150,468	1 78,490
貸倒引当金	201,747	40,601
流動資産合計	972,109	986,225
固定資産		
有形固定資産		
建物	33,347	26,506
構築物	404	378
機械及び装置	0	0
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	22,628	18,502
土地	33,794	33,794
有形固定資産合計	90,174	79,181
無形固定資産		
ソフトウェア	15,854	14,147
その他	4,311	4,311
無形固定資産合計	20,165	18,458
投資その他の資産		
投資有価証券	88,795	87,418
関係会社株式	235,702	2 214,407
長期貸付金	1 269,729	1 264,310
差入保証金	35,235	35,001
破産更生債権等	-	134,427
保険積立金	35,510	37,524
関係会社長期未収入金	390,904	435,240
その他	-	408
貸倒引当金	728,642	906,023
投資その他の資産合計	327,234	302,714
固定資産合計	437,574	400,355
資産合計	1,409,683	1,386,580

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	13,423	5,859
買掛金	¹ 96,957	¹ 71,608
短期借入金	100,000	^{1, 2} 252,558
1 年内返済予定の長期借入金	21,754	15,000
未払費用	¹ 29,926	¹ 29,851
未払法人税等	10,362	9,390
賞与引当金	5,342	8,766
その他	¹ 32,563	¹ 67,937
流動負債合計	310,330	460,972
固定負債		
長期借入金	70,909	66,250
退職給付引当金	66,119	71,970
繰延税金負債	468	429
その他	8,808	2,196
固定負債合計	146,305	140,846
負債合計	456,635	601,819
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,057,959	1,057,959
資本剰余金		
資本準備金	351,370	351,370
その他資本剰余金	195,470	195,470
資本剰余金合計	546,840	546,840
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	643,481	811,621
利益剰余金合計	643,481	811,621
自己株式	9,333	9,351
株主資本合計	951,985	783,827
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,061	933
評価・換算差額等合計	1,061	933
純資産合計	953,047	784,761
負債純資産合計	1,409,683	1,386,580

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高	1 1,292,101	1 1,421,214
売上原価	1 767,291	1 858,177
売上総利益	524,809	563,037
販売費及び一般管理費	1, 2 678,720	1, 2 693,487
営業損失()	153,910	130,450
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 235	1 607
為替差益	-	3,111
受取手数料	1 1,216	1 947
助成金収入	1,900	-
その他	1 1,898	1 684
営業外収益合計	5,249	5,350
営業外費用		
支払利息	1,479	3,490
為替差損	8,111	-
支払手数料	6,978	3,110
貸倒引当金繰入額	2,523	10,611
その他	321	67
営業外費用合計	19,413	17,278
経常損失()	168,074	142,378
特別利益		
固定資産売却益	-	18
投資有価証券売却益	-	952
特別利益合計	-	970
特別損失		
関係会社株式評価損	61,738	21,295
その他	617	-
特別損失合計	62,355	21,295
税引前当期純損失()	230,429	162,703
法人税、住民税及び事業税	5,436	5,436
法人税等合計	5,436	5,436
当期純損失()	235,866	168,139

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金	利益剰余金 合計		
					繰越利益 剰余金			
当期首残高	988,093	281,504	195,470	476,974	407,614	407,614	9,320	1,048,132
当期変動額								
新株の発行 （新株予約権の行使）	69,866	69,866		69,866				139,732
当期純損失（ ）					235,866	235,866		235,866
自己株式の取得							12	12
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	69,866	69,866	-	69,866	235,866	235,866	12	96,146
当期末残高	1,057,959	351,370	195,470	546,840	643,481	643,481	9,333	951,985

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	525	525	1,899	1,050,557
当期変動額				
新株の発行 （新株予約権の行使）				139,732
当期純損失（ ）				235,866
自己株式の取得				12
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	536	536	1,899	1,363
当期変動額合計	536	536	1,899	97,509
当期末残高	1,061	1,061	-	953,047

当事業年度（自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他 利益剰余金	利益剰余金 合計		
					繰越利益 剰余金			
当期首残高	1,057,959	351,370	195,470	546,840	643,481	643,481	9,333	951,985
当期変動額								
新株の発行 （新株予約権の行使）								-
当期純損失（　）					168,139	168,139		168,139
自己株式の取得							18	18
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	168,139	168,139	18	168,158
当期末残高	1,057,959	351,370	195,470	546,840	811,621	811,621	9,351	783,827

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券評 価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	1,061	1,061	-	953,047
当期変動額				
新株の発行 （新株予約権の行使）				-
当期純損失（ ）				168,139
自己株式の取得				18
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	128	128	-	128
当期変動額合計	128	128	-	168,286
当期末残高	933	933	-	784,761

【注記事項】

（継続企業の前提に関する事項）

該当事項はありません。

（重要な会計方針）

1．資産の評価基準及び評価方法

（1）有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの.....時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等.....移動平均法による原価法

（2）デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ.....時価法

（3）棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・製品・原材料.....移動平均法による原価法

販売用不動産.....個別法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価の切り下げの方法により算定）

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

（2）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェア（自社利用）については、社内における見込利用可能期間（3～5年）に基づく定額法を採用しております。

（3）リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3．引当金の計上基準

（1）貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

（2）賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

（3）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

4．収益及び費用の計上基準

当社の主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

電子レジスター及びPOSシステム、LEDデジタルサイネージの販売においては、顧客と約束した仕様及び品質の電子レジスター等を提供することを履行義務として識別しております。これらの履行義務は検収を受けた時点において充足されると判断し収益を認識しております。なお、一部商製品については出荷時から当該商製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため出荷時点で収益を認識しております。

5．その他財務諸表作成のための基本となる事項

（1）外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

（2）繰延資産の処理方法

株式交付費及び新株予約権発行費は、支出時に全額費用として処理しております。

（重要な会計上の見積り）

会計上の見積りにより当事業年度及び前事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものはありません。

(会計方針の変更)
該当事項はありません。

(表示方法の変更)
該当事項はありません。

(追加情報)
該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務 (区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
短期金銭債権	280,277千円	115,869千円
長期金銭債権	269,729	264,310
短期金銭債務	3,580	103,371

2 担保に供している資産及び担保に係る債務
担保に供している資産

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
関係会社株式	- 千円	214,407千円

担保に係る債務

	前事業年度 (2024年 3 月31日)	当事業年度 (2025年 3 月31日)
短期借入金	- 千円	100,000千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
営業取引による取引高		
売上高	757,973千円	731,222千円
仕入高	1,968	2,574
販売費及び一般管理費	10,516	8,071
営業取引以外の取引による取引高	1,093	1,190

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度64%、当事業年度67%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度36%、当事業年度33%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)	当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)
給料手当及び賞与	264,096千円	268,645千円
業務委託費	85,859	85,754
役員報酬	46,125	44,353
法定福利費	44,815	47,363
減価償却費	14,861	14,328
賞与引当金繰入額	5,315	8,234
退職給付費用	18,066	13,844
貸倒引当金繰入額	9,605	5,623

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
子会社株式	21,295	0
関連会社株式	214,407	214,407

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	452,355千円	433,410千円
投資有価証券評価損	11,241	11,572
関係会社株式評価損	588,722	582,952
貸倒引当金	284,885	297,166
販売用不動産評価損	28,391	29,225
棚卸資産評価損	6,717	7,827
減損損失	15,515	13,421
研究開発費	4,241	-
退職給付引当金	20,245	22,666
長期前受収益	2,441	495
その他	7,124	8,697
繰延税金資産小計	1,421,882	1,407,436
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	452,355	433,410
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	969,527	974,025
評価性引当額小計	1,421,882	1,407,436
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	468	429
繰延税金負債合計	468	429
繰延税金負債の純額	468	429

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、課税所得が発生していないため、注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金負債の金額は12千円増加し、その他有価証券評価差額金が12千円減少しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「注記事項(重要な会計方針)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区 分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	33,347	-	-	6,841	26,506	303,134
	構築物	404	-	-	25	378	13,249
	機械及び装置	0	-	-	-	0	229
	車両運搬具	0	-	0	-	0	1,963
	工具、器具及び備品	22,628	8,762	-	12,888	18,502	244,620
	土地	33,794	-	-	-	33,794	-
	計	90,174	8,762	0	19,755	79,181	563,198
無形固定資産	ソフトウェア	15,854	3,980	-	5,686	14,147	14,501
	その他	4,311	-	-	-	4,311	-
	計	20,165	3,980	-	5,686	18,458	14,501

(注) 工具、器具及び備品の当期増加額の主な内容は、ＬＥＤ表示機等の取得であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	930,390	16,234	-	946,624
賞与引当金	5,342	8,766	5,342	8,766

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.tb-group.co.jp/ir/index.html
株主に対する特典	該当事項なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の会社法第166条第1項の規定による請求する権利以外の権利を有しておりません。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第90期）（自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日）2024年 6 月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2024年 6 月28日関東財務局長に提出

(3) 半期報告書及び確認書

（第91期中）（自 2024年 4 月 1 日 至 2024年 9 月30日）2024年11月11日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2024年 6 月28日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の 5 第 4 項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2025年 6 月23日

株式会社ＴＢグループ
取締役会 御中

監査法人まほろば
東京都港区
指 定 社 員 公認会計士 土 屋 洋 泰
業 務 執 行 社 員
指 定 社 員 公認会計士 赤 坂 知 紀
業 務 執 行 社 員

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ＴＢグループの2024年４月１日から2025年３月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ＴＢグループ及び連結子会社の2025年３月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

商製品販売に係る収益認識（売上高の実在性及び期間配分の適切性）	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
会社は継続的に営業損失や親会社株主に帰属する当期純損失を計上していることから、売上高をはじめとした業績回復の達成への誘因が高い状況にある。当該状況に伴う不正計上としては、売上高の架空計上や売上計上時期の操作などが考えられる。 また会社の販売形態としては、仕入商品や製造品を販売代理店又は一般顧客へ出荷するものが大半である。 よって、当監査法人は商製品販売に係る収益認識（売上高の実在性及び期間配分の適切性）を監査上の主要な検討事項とした。	当監査法人は、商製品販売に係る収益認識が適切になされているかを検証するため、主に以下の監査手続を実施した。 ・商製品販売プロセスについて、内部統制の整備及び運用状況の評価を実施した。 ・必要と考えられる件数の取引を抽出し、契約書・注文書・出荷資料・納品書・請求書・入金管理資料等の証憑書類のうち各取引形態等に応じたものを確認することにより、取引記録の正確性を検証した。 ・取引の抽出は、無作為による抽出に加え、金額的重要性の高い取引や、分析的手続の結果必要と認めた取引等を特定項目として抽出した。 ・分析的手続は商製品種類別や得意先別等にて実施し、必要に応じて営業責任者や経営者に不明事項を詳細にヒヤリングし、追加で取引の検証を行った。 ・期末直近の売上取引については特に期間帰属の妥当性について留意した検証を実施した。 ・充分と判断するカバー範囲で売掛金の残高確認を実施した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第２項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ＴＢグループの2025年３月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社ＴＢグループが2025年３月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等（３）【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）１．上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

２．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2025年 6 月23日

株式会社ＴＢグループ
取締役会 御中

監査法人まほろば
東京都港区

指 定 社 員 公認会計士 土 屋 洋 泰
業 務 執 行 社 員
指 定 社 員 公認会計士 赤 坂 知 紀
業 務 執 行 社 員

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ＴＢグループの2024年４月１日から2025年３月31日までの第91期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ＴＢグループの2025年３月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

- ・ 商製品販売に係る収益認識（売上高の実在性及び期間配分の適切性）

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項（商製品販売に係る収益認識（売上高の実在性及び期間配分の適切性））と同一内容であるため、記載を省略している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。